大正九年七月

郡報

第五拾號

明治神宮奉仕號

利根郡

一	發刊にあたりて	野中 部長
二	序にかへて	高井 視學
三	日誌	小野 好教

明治神宮域内の狀況
寶物殿

前田前利根郡長談

田澤内務書記官挨拶

川西内務事務官談

田澤内務書記官談

全

全

茶話會席上各名士談

山岡中佐の乃木將軍談

野村嘉一氏の琵琶

見學乃木邸遊龍館

見學 新宿御苑

青山外苑

憲法紀念館

貴族院

次

野中 部長

高井 視學

小野 好教

十二日日誌

十三日日誌

十三日日誌

十四日日誌

十五日誌

十六日日誌

十七日日誌

十八日日誌

十九日日誌

廿一日誌

廿二日日誌

一木嘉徳郎閣下談
時事新報社
自由行動
歸郡解團

廿三日日誌

廿四日日誌

廿五日日誌

(目次終)

發刊にあたりて

大正八年十一月二十三日沼田町なる利根教育會記念館に於て三加會の總會を開いたことがあつた。

抑も三加會とは如何なる會かといふと本郡青年幹部講習の修了者から成立つて居るいはゞ同窓會の様なものである、何故に三加と名つけたか 是れには深い意味がある本郡の青年幹部講習會は第一回が池田村の迦葉山第二回が薄根村の三峰山うこで迦葉山の迦の加と三峰山の三を取つたのであるうして其れには猶内容がある一体西洋では三主義とか三日主義とか三つの内容を有する教訓が多い又日本でもよく三要素と謂ふて物の大切なる全部を包含させる言葉がある、其れに則つたのである。

扱て其席上に於て某君が當時の國民新聞紙上に靜岡縣安部郡青年團員が明治神宮御造營工事に奉仕したといふ記事を持參朗讀して諸君出来る事なら吾々も是非奉仕したいは無いかと語つた、すると満場賛成々々の聲を以て満たされ立どころに三十名程の志願者が出來て仕舞つた、否賛成せぬも

のは一人も無かつたのであるが行けるか行けぬかは一應歸宅の上父兄に相談しなければ答へ兼ねるから一寸待つて貰ひたいといふ者は殘の全部であつた、其處で吾々に於ても一方其筋に向つて手續を開始すると同時に他方全部に其周知を圖つたところが志願者續出し殆ど其採擇に苦んだ出來るなら志願者全部でと思つたが人員には制限があるので止むを得ず三十五名と限定したのである折角志願しても加へられないで仕舞つた人達には實に氣の毒であつたが上むを得ない。

其處で愈々準備を整へて十二月十一日沼田町を出立し十二日から二十一日迄十日間懸命に奉仕した後三日を見學に當てても當に暮れやうとする二十五日無事歸郡したのである其詳細は悉く此冊子に記載してある。

今回の奉仕は誠に好成績で豫期以上の獲物があつた一同は此機に於て多大の活教訓を得たのみでなく其活動の痕跡は實に「利根か丘」なる名稱の下に永世萬古明治神宮聖域の一隅に屹立して居るのである、希くは敬愛する本郡各位、各位は其子弟が

斯かる美蹟を有することを天下に誇ると共に將來一層の御自重あらんことを猶ほ末筆ながら今回此舉に際し多大の助力と便宜とを與へられたる諸賢に對しては滿腔の謝意を表する次第である。

大正九年五月

利根郡長 野中富三郎

序にかへて

高井生

首を回らせば既に八年の昔とはなりぬ、明治四十五年先帝重忠の報一度傳はるや津々浦々に至る迄國民といふ國民は皆天を仰ぎ地に俯じて共に御平癒を祈り奉りき、而して吾等も亦其一人にてありき。

掛けても思はんや明治の御代が四十五年を最後として大正と改まらんとは、又掛けても思はんやよろづ御運めでたくましまし、先帝陛下が御年六十一歳にして早くも御登退あらせ給はんとは、吾等草芥の微臣野に生れ野に長ず、されば大なる聖恩に浴しながら一も之に酬ひ奉ることを得ずして碌々の生を送り來りしが今回圖らずも此機を得て鴻恩の萬一にも及ばずとは申しながら肩をタコにし

手をマメにして奉仕したるにより聊か心の輕きを覺ゆるを恭けなき。

然れども吾等は未だ是のみを以つて満足すへきにあらず、先帝の世に在すや日夜國事に大御心を櫛ませられ避暑避寒の御暇だにあらせられさりき、此の御精勵が或は御病の一因を成せるにあらずやと思はるゝにつけても日本臣民たるもの誰れか感泣せざらん。

又先帝の御事業を助け奉りし吾等の先覺の士に見ても一死を鴻毛の輕きに比して屍を異境に曝らしたるもの野戰攻城に生れもつかぬ不具者となれるもの多きにあらずや、之を想へば吾等今回の奉仕の如き其微其小殆どいふに足らざる也。

今上御踐祚の勅語にヨク先帝ノ遺業ヲ繼承シテ失墜スルナカラシムコトヲ期スニ宣はせられたりき、吾等は只今回の奉仕を記念として一段の奮發を加へ以つて國民としての責務を果さんことを期すへきのみ。

先帝在天の大御靈願はくは加護あらんことを。と念しつゝ、二十五日午前五時五分新宿發にて肅條

たる冬枯れの關東平野を鐵路一氣に横ざりて故山に歸る。

新たに利根が丘の名を得たる吾等を迎ふなればにや利根の山河の一段と悦びて吾等を迎ふるが如くなるもうれし。

午後三時半頃郡衙にて野中郡長の解圍の辭藤井實業學校長小森警察署長等の慰勞の辭ありて三時半各家路につく。

目前の私事にかがづらひて勿忙の中に送らんとしたる此の一年の此の奉仕事業によりて意味深き一年となりしを悦はしき（奉仕日記の一節）

明治神宮御造營奉仕日記 小野好教

十二月十一日

雪後晴

外 係

教

七時發の電車にて出發する豫定なりしに雪の爲電車運轉せず待ちて八時四十五分の電車にて出發する事になつた一行は平野瀧澤兩氏に送られ野中郡長に引寄せられ高井視學小野白澤青年會長指揮の下に沼田を後にした綾戸を越せば己に雪止み澁川着十一時なりき直に前橋行電車に乗りかへて零時

三十分前橋田中町停留場に着いた暫く待つ程に神宮神部署より來られたる神官二名驛前の廣場に祭壇を設け一行整列するや神官祈詞を奉げ神を捧げて拔式を行つた、後に小憩して一同養餉をなし午後零時三十六分發の汽車に投じて刀水を渡る二時四十六分本庄驛を過ぐれば北赤城の山は雪荒れて見えずなりぬ此のあたりより關東平野なり數十項の田あり或は畑あり麥一寸程に青し田畑を横れば彼處に杜あり杜あれば必らず人家あり松杉櫨の類多けれど我が利根の如き森々たる林形を爲さず倭少平なるが却つて野趣多く旅人の眼を慰安せしむ原に一望千里の眸を放つて遠山を望む最も雄大なものなり桶川驛あたり己に午後四時夕陽日に傾きて光明顯に暮るゝ夕を聖化したる大宮に至れば日全く没し夕榮愈々赫々之餘榮ありて南方芙蓉の氣高き姿を望み富丘が無言の中に何をか教へつゝあるの感ありたり浦和にて車内電燈を點す暮色漸く増して車窓の眺めこれより寂びたり。忽ちにして赤羽驛に着くや山手線電車に轉乘し更らに池袋にて乗り替へ午後六時新宿驛に下車す。

薄根青年會長片野傳兵衛氏先發者として昨日上京し各級の準備を整へ態々新宿驛に吾等を迎へらる。幹部及青年六名一車連れし爲出口に待ち合せ一同同堵列して新宿の街出で徒歩にて代々幡町代々木山谷藤倉電線株式會社俱樂部の宿舎に着いた。當俱樂部は藤倉電線株式會社の社員及職工の會議所であり娛樂場である、然るに今回我が青年團の奉仕に就て豊多摩郡視學尾川藤十郎氏幡代尋常高等小學校長山口欽次郎氏の盡力に依り提供されたのである、一同下足を取り着座すれば郡長より宿舎を設定する爲に勞を取られし尾川郡視學を紹介せられ尾川氏亦りの経過と山口校長及本俱樂部の幹事にして元陸軍騎兵中佐葛岡正次氏を紹介された葛岡氏山口氏の挨拶あり次いで俱樂部幹事申中川靜之介氏夫人の挨拶もあつた。

夕食七時食後直ちに本部は青年を七班に分ちて室内の位置を指定した。
各班の人員左の如し
○は班長 ○は記録係
第一班

○ 小林 巧一 ○ 宮内 武通
深代 潔 ○ 七五三木 隆
高橋 榮

第二班
○ 品正 一郎 本多 長壽
○ 消水 彌平 相澤 藤作
給木 彌平 太

第三班
○ 新井 惠十郎 小林 文次郎
吉野 清義 林 通治
林 時雄

第四班
○ 星野 武三 梅澤 茂樹
河合 祐司 ○ 小野 好教
武井 貞雄

第五班
○ 眞下 伊三雄 深津 芳雄
藤井 重太郎 秋山 虎治
松井 大太郎

第六班

○ 高橋 誠志 藤井 誠之助
荒木 恒司 山岸 勝四郎
増田 徳次郎

第七班
○ 田中 岩次郎 登坂 仲次郎
清水 正男 後藤 喜代次
永井 喜平

室内は三十二疊二十四疊の二間を取り拂ひ五十燭の電燈三ヶ所に點せられ隈なく照さる、次に郡長から訓示があつた。

今回諸君が明治神宮御造營に奉仕せらるゝといふ事は先帝陛下の御盛徳に報ひ奉るのみならず一身一家の永遠に亘る光榮である諸君は目重奮勵此の十日間を最も意義ある生活として修養鍛練十二分の効果を擧げて貰いたい就いては夜分各士の講演も頼む心算である。

工事については勿論元氣よく指揮者の命に従つて能率を高め最も優秀なる成績を擧げ又所作進退よく秩序を保ち朋輩と親しみ各自所持品は之れをよく整頓し成るべく他人の手を煩はさない様に方め

て團体の名譽を重んじて貰ひたいとして此の十日間の奉仕に於て幹部講習以上の効果を納めねばならぬ。

と督勵された後尾川視學山口校長葛岡氏は辭し去つた續いて片野氏より舎内生活に就て當番を定め當番の事務事項として次の如き注意があつた。

- 一 起床合圖
 - 二 食器の配列
 - 三 掃除
 - 四 下足外套荷物等の整頓
 - 五 作業具の取出し仕末
 - 六 郵便物取纏め投函配布
 - 七 寢具の整備
 - 八 辨當配布 門番注意
 - 九 入場券の配布
 - 十 病氣の時は班長に申出る事
 - 十一 外出の時は班長を経て指揮者に申出る事
- 以上の注意が終つて八時頃より各自近くの飯湯に入浴し漸次快眠の床に疲勞を慰めた

十二月十二日 金 快晴

起床午前五時半寒氣肌に迫る遙かに皇居と大廟とを拜して一同作業服に着換へ六時二十分朝餉を済まし小憩して七時十五分宿舍を出て、神域第二見張所より入りて工務所に至る一室に案内されて待つ事暫時明治神宮造營局林苑課農學士中山斧吉氏來られて挨拶に兼ねて奉仕に對する希望を述べられた曰く

抑も明治神宮は先帝御崩御の後國民一般の人の頭に先帝陸の御盛徳を敬慕するの餘り何とかしてこれを永く記念したいといふ事で調査會が組織され種々研究の結果幽遠の地に神宮を御造營したいといふ事になつたのである諸君に御願する林苑の仕事は其一部である、近く石炭の使用が益々多くなる爲めに植物はうの煙の爲に萎靡しつゝある植物にある綠葉素は亞硫酸瓦斯の爲めに害されて此のあたりに杉の様な杉はない縦も皆枯れて了ふ昔上野は横と杉の美林であつたが山下の畑が今では胃して了つた芝公園なども其の通りである故に此儘にして居いては現在の

積は二十萬坪約七十町歩であるうの外青山外苑の十七萬坪を加へ我國神域に見ざる第一の廣さである。

誠に先帝陛下が廣く國民を愛撫された其の御聖徳を敬慕する爲に奉仕すると云ふ事は非常に尊い事である青年團が御造營工事に奉仕をされるのは未だ日尙淺いのであるが宛も物の響に應ずるが如く各地から申込があつて己に來年の六月迄は一ばいだらうである造營局は非常に満足を表してゐる青年團で己に奉仕を終へて歸つた團體が二團體後一團體は昨日仕事が終わつて今日明日と東京を見學して歸るといふ事になつてゐる彼の青年團の成績は期待以上によかつたらうである。

此の明治神宮造營局は總務課經理課工營課林苑課の四課に分れてあつて己に奉仕を終へた青年團體は工營課の土木の方の仕事をしたのである諸君が今回林苑課の仕事をするゝについては是非共眞剣にやつて貰いたい成績の良否はこれを少しく大きく言へば静岡と群馬の比較になる更

林相を殘して行く事は六ヶ敷ある近く植物は段々滅亡の慘狀を況するでありませう故に此の林苑課は遠く將來を考へて針葉樹濶葉樹あらゆる種類を混淆して植へ交ぜた亂雜な林を作るのである現在此の處にある松杉樺椋といふ様のもも漸次枯損する虞があるから二次三次と煤烟に對する抵抗力の強い樟檉榲榭といふ様な種類を以て之れを補ふといふ計畫であるから百年二百年の後には全く林相が一新する事と思ひます。

諸君が郷里にある様な松杉檜といふ様な一種類を規則正しく植へた國有森林と違つて亂雜不規則の植樹をするといふ事が明治神宮御造營調査會の研究した結果である一口に言ふと原生林の中へ御社殿を御造營したいといふので經濟的の林ではないのである神宮御造營の儀は大正四年議會の協賛を経て參百萬圓の經費を以て着手し大正六年度の追加豫算と本年度の追加豫算を併せると總經費五百萬圓になるのである御社殿は全部白木屋造りで木曾の檜を用ひ寶物殿は臺灣朝鮮の木なども使ふ事になつてゐる神苑の總面

らに大きく言へば關東と關西との争になる。

と訓へられた續いて技手高木一三氏同囑託八里賢二氏を紹介された高木八里兩氏に案内されて八時五十分頃工務所を出て神苑を拜觀す舊池の邊を通りて舊御殿に到る此處は元井伊掃部守の御屋敷なりしに先帝陛下いたく庭の風致を愛されしにより全家の献上せられしものなりといふ敷地の總面積二千五百坪にして庭は美しく芝生老松十餘株亭々として翠色風を鳴らし檜楓など交りて風雅なり今や刈株のみ殘れども秋の萩の頃は最も佳趣に富み一名萩の御殿とも言ふ門口に清正の腰かけ石といふ石あり舊式の御造營にて質素なる狀思ひ見るだに涙のこぼれる様なり。

萩の御殿を辭して南參道に出でて進む。

神宮に建てられる鳥居總て八基にして材は臺灣阿里山の紅檜で大きいものゝ年輪を調べて見た處實に千七百四十年を経過し次餘も大概千五百餘年を経た古木で恰も神功皇后が三韓征伐の當時發芽した様なもので其の重量は六千八百八十九貫長さ五十九尺幹直徑五尺三寸といふので總ての

華表八基の價格は合計貳拾貳萬餘圓に上る。

其處より南參道の入口なる神橋に至る神橋の土臺石は栃木縣に産する大谷石とて卵灰色をなせる凝灰岩様のものにして之れを自然の石面を有りの儘に積み上げて自然の態を模し橋材は岡山縣産なる萬成御蔭を用ふる事なるが目下は土台の工事中にて最新式の機械を用ひ熟練の工夫が作業中なり橋下を流るゝ溪流は參道右手の池より來りて河畔に茨城縣筑波山の生駒石を天然の儘不規則に配置し兩岸の樹木と相映じ潺々たる溪流の趣深し一行は南參道を北に進む左側に高さ四十二尺經六尺餘の大枯木ありて棚を廻らす。

此枯木は樅にして今より三十六年前に枯れしものなるが枯るゝ以前は技が二十四尺も伸び昔名家の畫題にさへなりしといふこの地海拔百二十尺なるも此の樅の木に登れば江戸中が一目に見えしと傳へられ大昔から植へ換へ植へ換へして此の枯木は三代目のもので此の地を代々木と稱するに至つた所以は此の樅の木が代々傳つて來た事によつて起つたものである。

みて滾々として湧き出で眞夏も澀れず冬凍らす其清正の杉といふ老杉あり舊御苑の拜觀を終りて再び參道に出で北に進み舊御殿の前から左へ十間の表參道となり此入口には大華表が建てられる筈である。

表參道は亦も鍵の手に右に曲つて其の正面が南神門である。

茲にも亦大華表が建てられる南神門を入れれば樓門高く聳へ御遷座の後是一般の人々は此處迄來て參拜する事は出来るが其れより奥へは進めぬ樓門を入れれば石疊の十字路になり右左は東神門西神門に通じ正面は拜殿で七分通りの工を終へて居る御社殿に用ふる材は總て木曾の檜の粹にして總て白木なり木の香高く薫り神々し更らに奥に進めば左に神饌殿あり自から崇敬神饌殿の東側には使殿と御車寄せとがあり工事半ばなり御本殿の四圍には廻廊廻り更らに其の外圍には玉垣廻り玉垣内の面積は六千坪にして神域の廣大なるに於て本邦第一なり御社殿の總建坪數は六百二十二坪にして内御本

といふより左に折れて舊御所を拜觀す少しく坂を下れば池あり右に曲りて隔雲亭と稱す御茶屋あり照憲皇太后屢々御休憩あらせられたる御場所にして永遠に保存する筈であるといふ庭の芝生直すべく彼處につゝじあり此處に萩あり山茶花の咲けるは興趣殊に多く池は水青く鯉を養ひ舟を泛ぶ照憲皇太后の釣をなされし御跡といふ六尺四面程の釣臺あり汀に笹あり山吹あり檜栗樺などの雜木林奥深し池は西北に細く續きて萬蒲池となる風雅なる八つ橋を渡れば檜栗の丸太を以て作り屋根は萱ぶきの肅酒たる四河あり高木技手は懇ろに説明して言ふ。

此の萬蒲池は蒲田とが堀切とかいふ名所と違つて凡う八十餘種の種類が有つて五月の頃萬蒲の花と兩岸の樹木の若葉の色とがよく調和して言ひ盡されぬ美觀かあります照憲皇太后様は非常に此の庭が大好きでありまして常に御恩びで御出でになられて家庭的にに親しまれた場所でもよく御歌なども作られたらうであります。

と教へられた更に進めば清正の泉ありて水清く澄殿は二十九坪五合中央最も高き所に宮柱太敷建てられて鎮座まします神樂殿は未だ着手せざるも樓門内に建てらるゝ豫定なりといふ。

御社殿の敷石廻廊敷石階段石等は岡山縣北木島の産なる北木御影二萬四千〇六立方尺を用ひ又玉垣は茨城縣の稻田御蔭にて七千立方尺を用ひ。

御社殿の屋根は總て檜の皮を用ひ紀州高野の産にして三葉合せて一枚となし此れを幾層も重ねて竹釘を以て打ち込むるなり。

造營局の調査に依る尙ほ各府縣からの献木は左の通り也

東京	一四、二四七	大阪	一、九四五
千葉	一〇、〇〇〇	京都	八六〇
神奈川	一、〇三六	埼玉	一〇、五六四
群馬	九七九	茨城	七〇二
宮城	一、二六七	青森	一、三二四
山形	一、四四二	長野	一、〇一八
静岡	一、六六三	岐阜	一六八
栃木	三五二	福島	三、二六七

岩手	一八九	秋田	三五
新潟	一九六	山梨	八四三
愛知	一〇三七	富山	八五一
石川	五五八	滋賀	六二七
三重	八九三	兵庫	二、四四九
島根	一、六四八	廣島	四、四九一
徳島	八七七	愛媛	四三五
福井	一六九	奈良	七二四
和歌山	六九一	鳥取	二九四
岡山	一一、〇九九	山口	一、五三三
香川	二、三七一	高知	一、三九八
福岡	四、八三五	長崎	五五八
大分	七七五	鹿児島	七三二
北海道	八五八	樺太	五四
佐賀	四二六	熊本	二〇一
宮崎	八三〇	臺灣	七、四二一

御社殿より右に折れて献木薫る林苑の間を通りて大廣場に出づれば稍明るくして陽氣なり。

廣場の芝生を横りて林苑中の道を通り第三見張所に出づ門外は大通りにして代々木練兵場を境す

十分亦休息す休息は働がなが爲の休息である。

我が青年の休息は活動に優りて貴い三時亦もや始業して夕陽西に沈むまで益々力めた四時業を罷め器具の土を落し納屋に納め整列して點呼を行ひ第二見張所を出で、宿舎に歸つた早々入浴に行く者もあり六時には夕餉を済し夜分は隨意行動にて手紙を書くものあり日記を綴るものあり新宿へ用達に行く人も三四あつた。

郡長は忙しい用事があるので歸郡されたと視學さんから話があつた明日の精力を養ふべく七時頃より就床するものありて九時には全く眠りに就いたかくて奉仕の第一日は蓋なく終つた。

十二月十三日

土 曇小雨

起床午前六時洗面して先づ宮城大廟を遙拜し朝餉早々七時には作業場に詰めしも係員の都合に依り器具の取り出し遅れし爲始業は八時なりき八里氏は熱心に仕事の順序を指示される昨日と同じく一二班は築山の方他は埋立の方に働く八時五十分小憩後六班七班はトロの線路を作る時にモッコ十枚の補給ありて戦備大いに革まり能率益々上る作業

神苑の御敷地二十二萬餘坪を周る間地積石垣は頗る精工なるものにして延長優に一里餘に及び其の石材は相州六ヶ村石を用ふ石垣上には更らに土手を築き大黃揚を植ふ神宮御竣工の曉には此の第三見張所たる代々木山谷に至る參道と南參道を以て神宮參拜の道筋とするものなり茲より再び神苑に入りて工營中なる寶物殿前を通て吾等が奉仕すべき寶物殿裏の築山に案内されて八里氏より作業に關する注意事項を聞く時午前十時三十分再び工務所に歸りて休憩し十一時半工務所の倉庫前に蓆を敷きて中食す。

午後零時三十分一同は利根實業學校女子部生徒が眞心こめて仕立て、呉れた作業服に身を固めた茶碗四十個土瓶七個(二班一個宛)筵二十枚シャベル二十四挺鍬二挺萬能五挺モッコ八枚棒八本を拜借し工事場に詰め八里氏の監督の下に小野副團長の指揮に従ひ一二班は築山の仕事に三四五六七班は窪地の埋立をなすべく二組に分れて奉仕の第一指を染めた全員清き汗を流して努力奮闘の意氣頗る盛であつた一時五十分小憩して再び努力し二時五

中山林苑課長が巡察に來られた十時四十五分再び休息し亦奮ふ正午中食午後〇時四十分明治神宮造營局技手農學士森一雄氏同造營局技手寶物殿係菊池彌右衛門氏の二氏に案内されて寶物殿を拜觀す初めに二十分の一の模型に就て一通りの説明あり。

寶物殿は本殿を南倉といつて間口二十間奥行八間高さ七十三尺にして建坪百六十坪である右にあるのが東の倉で左は西の倉といひて此の橋廊を以て兩方へ通ふ事に、寶物は度々陳列を變へて拜觀せしむる様にする計畫である。

總て寶物殿は奈良の正倉院に型を取つて工營し材は近代の建築術に於て最も進歩せる鐵筋コンクリートとす此鐵筋コンクリートは四十年前フランスの植木屋が植木鉢を造つた事から發明されて今日に於いては震害火災濕氣あらゆる災害に對して最も耐久力が強いといふ最新式の建築法で殊に此の寶物殿の各建築の床下を高くしたものは最も意を用ひたものである。鐵筋コンクリートを包むに全部岡山縣産の萬成御蔭を以てし

内部は物品貯藏上最も適當なる木を以て張る事になつてゐる。

南倉の裏の貴賓室事務室御便殿御車寄は皇族貴賓を迎ひ奉る爲に備ふるもので東の倉から西の倉までは四十三間になつてゐます總て此の外圍の玉垣は山梨縣の白山御蔭が茨城縣の稻田御蔭を用ひるか調査中である。

この説明を聞きてより工事中なる東の倉より拜觀した床下實に十二尺己に鐵筋コンクリートに萬成御蔭を被せて出来たものである橋脚は土臺の工事中にて傍にコンクリート製造機あり此の機械を一日間断なく使へば優に十坪のコンクリートが練れるといふ是れ文明の大なる思恵であるるれより南倉の足場に登りて見ればコンクリート厚さ一尺餘にてうれに萬成御蔭の七八寸のものを被せるのであるから建築上知識の殆んど零なる我等にも如何に堅牢なるかと推知せられる寶物殿の工事は大方鐵筋は建てられて石工の手を煩はすもの最も多く並べられたる石材は數頃の白地白田をなす
午后一時拜觀を終る吾等が修築すべき築山は高貴

早々挨拶に次いで私は利根郡に郡長をして居りましたから利根郡とは非常に縁故が深いので村の名前なども私の頭に懐しく響きますから一人々々村と名前を言つて貰ひませうといつて名簿を手にして一人々々名前を指して村の名を問はれ新治の木檜仙太郎さんや生越の林貞次郎さん亦栗生新道の事などについて質された我が青年の過半数は前田郡長在任の事を知つてゐる故懐舊の情が一しほ深い前田參事官殿は最近歐米漫遊より歸朝されしとて歐米視察の所感を屢々力説された左に大要を記す。

私が最も愉快に思ひます事は郡の青年會が立派な成績を擧げてゐるといふ事である利根の青年會が縣下に出色してゐるといふ事である諸君の中には知つてゐる人もありませうが郡の青年會の發會式を擧げた時は未だ日本全國を搜しても廣島縣沼隈郡青年會位しか郡の青年會といふものは無かつたのである、當時私は青年であつた二十七の暮から二十八二十九と三年利根郡に郡長をしてゐた自分も青年であつたから青年會に興味を持つてゐたご

の御覽に備へらるゝ林苑である吾等が光榮は窮りなく我等が責任は大きくある。

合圖に依りて直ちに就業すれば天色を變へ雪となりて降り來る雪降れば思は故郷の空に飛ぶ諸生皆故郷の友を語り懐しき家庭を思ふ。

作業の最中明治神宮造營局林苑課技師本郷高德氏巡察に來られた本郷氏は往年燭逸に留學せられ専ら庭園學の研究を積まれし斯學の權威者にして我が利根實業學校長藤井節三氏の莫逆の友にして今回我が青年團の奉仕に就て非常なる便宜と助力とを與へられし御仁である、雪はいつしか雨に變る二時五十分休憩して亦々努力し四時罷業した天曇り雨さへ降りしかど終日の勞作を終へて歸る心地よさよ遂行の歡びは無限である器具を整へ納屋に收め整列點呼をなし雨に濡れて歸合した宿舍には時事新報社より同紙を惠投せらる群馬版に我が青年の奉仕の記事が掲げてあつた、六時夕食を濟し前我が利根郡長たりし内務省參事官兼監察官前田多門氏の講演を聴くべく待つた氏は路に迷ひしとて八時過ぎてから雨を冒して來合せられた着座

うか郡の青年と一所になつて働いて見たいといふ所から郡の青年團を組織しようではないかといふ事を諸君の村々の村長さんや小學校の校長方に議つたすると非常な賛成であの金盛座に於て發會式を擧げた其の時私はどうしても此の會台をた祭り騒ぎに終らしてはならない木當に生命のある者にしななければならぬ頼んだのである然し其の時は海のものとも山のものともつかない解らないものであつた其の後八年其の間健全なる發達をして出色のある青年會となつたといふ事は非常に愉快に感ずる所である自分が最初の青年會を作つたが完全の域に達してゐないと言ふのでは情けないが今回は亦其の青年會が主催となつて明治神宮の御造營工事に奉仕されるといふ事は非常に嬉しい事であるどうか諸君は此の秋に方り一層奮勵して貰ひたい、諸君は今明治神宮に奉仕されるに就て亦東京の種々なる繁華の状況を見て新らしい刺戟を受けて今日の使命を辱めない許りでなくどうか郡青年會の中堅となつて働いて貰ひたい。
日の強い處に蔭も強いといふ事があります如く都

會にはよい所も澤山ありますが、その反對に亦悪い處も澤山あるのでありますから諸君はこれから得られる最もよい處のものを持つて歸つて貰ひたい私は近頃歐米を漫遊して來ましたからこれから少しく西洋を見て來た話をするにしましてもよい所を話して見たい。

先づ西洋から歸つて來て見ると日本は波止場が小さい電車に乗つても道を歩いて混雑する工場へ行つて見ると工程が捗つてゐない機械を使つて居ない總て小さくて穢ないといふ感じがする道路にしてもフランスの巴里の如きはチャンと舗道にするとか街のよい處になるとアスハルトを敷いて塵一つ立たないといふ風であるそれが東京では郡部の方へでも來ると非常に道が悪くて今夜の様に雨でも降ると足は汚れるハチは上るといふ様な始末で誠に總てが遅れて居る、然しフランスの巴里の様な繁華の街には亦悪い所も多い日蔭の強い所には蔭も強いのである悪い所を見るときは進歩の上は何の効もない事であるから私は西洋の美点を話して見たい。

に於て困苦欲乏あらゆる困難に際して如何にして切抜けるかといふ苦しみから非常な試験を受けてゐる。

それが日本はどうであるか懸て來るべき艱難時代に遭ふてどうするか國歩艱難の時に際して如何に切抜けるかといふ準備が出來てゐるであらうかといふ事を考へると寒さを感じる實に慨嘆に堪へない。

昨年八月私は英國にゐて日本の各地に米騒動があつたといふ事を耳にした西洋には己にあつたやう騒動があつた跡だ、私はロンドンで或る日下宿屋へ夕食を食ひに行つたすると給仕の女が「あなた肉の切符を持つてゐますか」といふので肉の切符を持つてゐなければどうしても肉を賣つて食はして呉れぬ錢が澤山あるからと言つた處で少しも賣らぬ英國では戦争をする爲めに食物でも燃料でも總て消費の制限を受けてゐたので英國民全体に食物でも燃料でも無駄にしないといふ其の堅い精神がよく行き届いてゐる食物の制限令を出すにしても決して規則にはしない國民の良心に訴へると

私は今日の日本の國程幸福な國はないと思ふが亦一方から考へると日本程不幸な國はない先づ幸の点は何かといふと西洋に於ては前後四年間といふもの想像の出來ない大災難を蒙つてゐるヨーロッパの荒廢といふものは非常なものである數百萬の生靈を戰場へ送つて犠牲とし數百億圓の富を散じて戦争をした其の結果生産機關は壞される労働者は足りなくなり食糧は不足する逆も想像する事の出來ない艱難に遭遇してゐる、それが日本はどうかといふと戦争は名目丈で皆儲けてゐるから西洋人は日本人嫉妬してゐるヤキモチを焼き始めた考へ直すとこれは非常な不幸である日本は西洋人と人種が違ふから交際が出來ない交際が出來ないと本當の同情が起つて來ない斯うなると西洋人は日本の邪魔をしてやろう妨害をしてやろうといふ事になる。

私は西洋から歸つてから地方を旅行して見ましたが都會でも地方でも僅かな成金熱に浮されてフヤケ切つてゐる少しも緊張してゐない。それが西洋は鍛へられてゐる彼の四年間の大戦争

いふのである西治料理屋などでも食物の制限をした日本の料理屋の様に成金が一人前何百圓の御馳走をしたといふ様な馬鹿騒ぎは決してしない國民の上下歎んで之れを實行する誠に羨しい程公徳が發達してゐる亞米利加でもうである其心懔力政府の命令に服従して自制克己或はパン無し日肉無し日を勵行して西歐の戰場に「自由の擁護」を叫んで彼の大軍を送つた國民の覺悟は羨しく感ずることに較べると日本人の賤しい根性は實に慨しくある。

西洋に行つて羨ましいと思ふことは此の公徳の發達してゐる事である演說會などでも日本では出るにも這入るにも押しあひへし合ひする折角眞面目に聞かされてゐる聴衆の迷惑も顧みないで煽次つたり妨害したりする煙草をふかしたり帽子を冠つた儘聞かされてゐるといふ風で非常に風儀がよくないそれが西洋ではどんな會台へ行つて見ても押し合ひへし合ひするといふ様な事はない靜肅なもので人の迷惑にならない様に互に譲り合つてゐる電車などでも年寄とか女とかいふ様な弱いものを先に乗

せてうれから順に乗るといふ風で決して先を争ふて混雑する様事はない。

ロンドンで恰度議會の始まつてゐる處を傍聴した。だが其の静肅さは遠がに立憲政治の先進國である傍聴者でも決して先を争ふといふ様な事はしない。先へ来たものから順に幾百人にも珠數繋ぎになつて這入つて行く議院も我が國とは違つて議員は兩側に並んで議員と議員とが向ひ合つてゐるうして議案が出る。其の問題に就て或る議員が意見を述べらうの間に疑問の点があれば質問する其の質問が終ると再び議員は自分の意見のある丈を述べ一人の議員が演説をしてゐる中は議院一同が静肅に聞かされてゐる。それが嘗へ敵黨の議員であつても騒がしくしたり彌次つたりする様な事はしない。そして其の問題に對して議員の意見のある間は御飯になれば御飯を食べて亦續いてやる。こうしていつ迄でも其の問題をよく研究する問題の解決する迄は夜の九時でも十時迄でもやつてゐる實に其の態度が正々堂々として敵も味方も全國民の爲に議論を聞かせるのである。その光景は誠に羨しい程であ

であるから容易な仕事でない。うれに不拘多く大學教授とか貴族とかいふ人が應募したのである。大學教授とか貴族とか云ふ人々は警察官にならなくてもよいのである。が社會の安寧を保つ爲に社會の必要に應じては公民として應分の仕事をして社會の爲に盡すといふのが精神が非常に尊いのである。うれから私の處へ先頃ロンドンから非常に愉快な寫真が届いた。それはロンドンで十月の始めに鐵道院のストライキがあつた鐵道従業員が全部罷業したから生活の必需品が停滯してロンドン初め各大都會は勿論地方に至るまで非常に困難をした。此の時にも貴族が鐵道の従業員に志願して汽關手をしたり荷物を運んだりする。其の光景を撮つた寫真である。九日間で其のストライキはなされたのである。其の問題について教へらるゝ所が多い貴族が自から志願して汽車や自動車を運轉して國家の危急場合を補ふといふのが精神と活動とは貴い事である。うれに就ては二つの理由がある。有形的の理由としては第一に道路がよいから自動車を使つて貨物の運搬をやる食物の制限に馴れてゐるからよく

る、うれについても一つは選舉を重んずるといふ事である。選舉を重んずれば議會に御粗末な議員が出る。議員は國家公民の大事を議するのであるから最も眞面目な考を以て選舉しなければならぬ。神聖の選舉を行ひたい。一般に政治的の知識を高めて選舉といふものゝ眞精神をよく理解しなければならぬ。英國では子供迄が興味を以て選舉の結果を見てゐる。我が國でも昨今普通選舉といふ事が非常に喧くなつて來ました。が早晩國民の知徳が磨かれて來れば普通選舉になるであらう。がこれは本當に選舉といふものゝ自覺がありません。却つて普通選舉は弊害が伴ふ事でありませぬ。から今後諸君は數々是の點に注意して是れ迄あつた様に投票を買収するとか或は親類縁故の關係で投票するとか言ふ様な事ではなく此の人物であるならば自分の一村一郡の代表者として待む事の出來る人であるといふ人物を選舉する様にしなければならぬ。其の次は自治の精神といふ事である。昨年の夏英國で警察官が足りなくなつた時に義勇警察官といふものを募集した。警察官は社會の治安警戒に當る役

困難に處する事が出來た無形の理由としては貴族が鐵道の従業員にならうといふ自發的精神がある。これが自治の精神である事がある。何かに盡す自分の身を投げ出して社會の安寧を計らうといふこれが尊い精神である。

諸君の奉仕の精神は英國の貴族の精神である。明治神宮に奉仕するといふ事は社會國家の爲に盡すと同じ事である。身を以て盡すといふ此の精神があればどんな困難が起つて來ても切り抜ける事が出來る。明治神宮に奉仕するといふ事は明治大帝の愛撫された國民に盡すのと同じである。西洋の人は若い者許りでない年を老つてもやる自分の出來得る丈の事を常に精を出してやる。うして何か事がある。と身分に相應した仕事をして國家社會の爲に盡すこれが自治の精神である。

私は最後に勞働を重んずるといふ事を話したい。私は遠慮なく言ふ日本人の多くの者は勞働をしない。これは食ふに困るから勞働をするが若し勞働をしなくて済むならば勞働をしないであらうと思ふ。うれでは本當に勞働を尊重するとは言へぬ。食ふに困る

困らないといふ事は別問題として労働するといふ事は自分の務めである日本では停車場などに於ても西洋に比べると赤帽が多い少しの荷物でも直ぐ赤帽に頼むといふ風であるそれが西洋人は自分の仕事は自分でやる成るべく他人の手を煩はさない様に考へてゐる先程話した様に必要に應じては貴族が鐵道の従業員に志願して自から汽關手になつたり荷物を運んだりするといふ精神であるから全く日本の貴族とは違つてゐる自動車の様なものも澤山使つて居るが運轉手を雇つて置くといふ様な者は少ない皆自分でハンドルを取つて運轉して居る西洋では女中を使ふといふ様な事も少ない全く婦人から小供に至るまで自分の事は自分でするといふ習慣で労働する事を愉快に思つてゐる。

私は久し振りで御馴染の皆さんに御目にかゝつて唯嬉しくて本當に自分の思付いた事を申し上げましたが日本人はどうしても少し景氣がよいと直ぐに調子づいて有頂天になるやうして時間を浪費する金を浪費する彼地では小僧などの金の使ひ方を見ると實に羨しい決して食物は買はない小遣錢を溜

んの様な人に皆私御交際を願つた人でありませうから宜しく申して下さい。

と一時間餘り例の熱辨を以て警世的大講演をされた一同先生の人格を通して斯る大教訓を拜聴して顔面に輝く希望の光を與へられ満悦感謝の裡に先生を送り高井團長小野副團長は新宿まで御送り申したり、一同就床十時快眠に入る。

十二月十四日 日 美日

午前六時半起床天は一体に曇り雪が地上に花を散らした洗面して皇城大廟を伏し拜み七時朝餉をなす七時半宿舍を出て、作業場に出頭した昨夜の雨に土は濡れて重く泥土は器具や衣類について甚だやりにくくあつた昨日静岡縣駿東郡北部聯合青年團七十名神宮奉仕に上京せしとて吾等が作業に對陣してトロ押しを開始し彼の青年の眞剣なる活動振りには又欽羨に堪へぬものがあつた、九時四十五分に十分休憩す時に天は雲切れて日本晴となる亦活動を開始するや林苑課囑託下田喜久雄氏の巡察あり午砲を聞きて晝餉をなし午後一時就業すれば午日愈々豊かに照る工事に進捗して諸生益々奮

めて置いて何分の爲になる書籍とか機械とかいふ物を買ふ様にしてゐる戦争で日本の國が儲けたといふた處で米國が戦争で儲けた富の十分の一にも及ばないのであるそれを考へないで一寸景氣がよいといふと來るべき艱難時代に備ふる事を忘れて少しも緊張してゐないといふ事では誠に慨嘆に堪へない次第である。

要するに日本は片田舎である戦争の餘波を受けなかつた爲に刺戟を受けない世界の人が一生懸命に改造の爲に働らいてゐるのであるから早く武陵桃源の夢から醒めて公德を重んじ自治の精神を養ひ更らに社界的施設をして愉快なる氣分を作るのである青年會は最も此の点に中堅となつて良風を作つて貰ひたい折角種々な會合があつても常に周圍が愉快なる氣分を作つてゐない爲に引込み思案をして下ふと言ふ様な事になる。

ううして労働の習慣をつけて事のある時は何か自分の力に相應した仕事をして社會國家の爲に盡すといふ事を希望する次第であるどうか利根郡へ歸りましたならば村々の村長さんとか學校の校長さ

ふ快言ふべからず、森技手は作業場に來られ上衣を脱ぎて自からシャベルを取りて土工の技術を教へ且つ勵まされる明治神宮造營局參事内田信保氏同造營局屬村越進氏の二氏の巡視もあつた内田參事は前群馬縣高崎市長に奉職せし人なりといふ、二時二十五分小憩りれより夕まで労働す西山に日落つる頃小野副團長は内務省書記官兼明治神宮造營局總務課長田澤義輔氏と共に來る田澤書記官は温顔に笑を堪へてヤア諸君御苦勞様と平民的に我が青年に愛撫の言を發して我が宿舍へ先に急がれた我等は器具を整理し一班長の指揮にて整列點呼を行ひて歸舍した時五時田澤先生は内田參事と共に我等が歸舍を待ちて一同上るや直ちに挨拶をされる。

今回諸君が遠い利根郡から態々明治神宮の御造營奉仕に來られた以上は明治天皇の御聖德に報ひ奉るといふ事許りでなく諸君の修養上何なりと御爲になる様にしなければならぬ私は前田君と同じに大學を出て前田君は利根郡で部長をする私は静岡縣の安倍郡の部長をしてゐるから

本省へ這入つたといふ様な譯で同じ經歷を持つてゐるのであるけれど今回諸君が折角奉仕の爲に上京されたに就ては自分も講話をするなり亦講師を頼むなり出來得る丈の力を盡す心算であるから諸君も眞剣にやつて貰ひたい諸君は大概幹部講習を受けて居る事であるから今回は幹部講習の豫備召集をされたと思つて残る一週間をしっかりとつて態々東京まで來たのであるから奉仕に來た甲斐のある様に充分の修養をして貰ひたい。

と自分等は青年の味方である青年の同伴であるといふ様な快感と鼓舞とを興へられた時五時三十分卒直な田澤先生はサア諸君夕食をやり給へと言ふので一同食卓を圍むや「静岡の盤田郡の青年は一日八合平均平げたらうじや」と何々大笑された後内田參事と共に辭去された食後入浴に行く六時三十分頃より日曜の事とて折よくも藤倉電線俱樂部の演藝會連の餘興として劍舞、薩摩琵琶、手踊、ヤギ節、大正踊など頗る興味ある演藝を提供せられた吾等連日の疲勞を大いに慰められた、然し吾等

に取りては是れ全く上への娛樂である奉仕の生活こそ眞に我等が心奥の歡喜である就床九時三十分より高井團長小野副團長は千駄ヶ谷なる静岡青年團の宿舍に田澤書記官の訪問して夜間の修養に關する諮問をなしたり。

十二月十五日 月 曇夕方雨

起床六時三十分諸生健闘の餘恵ありて愈々快眠を貪るものゝ如し然れども洗面して遙かに宮城を拜し大廟を拜して朝の空氣に觸るれば英氣新生す。七時朝餉を終り同三十分頃宿舍を出て、作業場に急ぐ通路は第三見張所を以て常とす八里氏は朝早くより精勤して監督の勞をとられ我等は小野副團長の指揮に従ひて去就する今朝は八時少く前に始業した指揮者の命に従ひ仕事を交代すべく一二班はトロを以て埋立をなし三四五班は林苑の方に代り六七班は昨日迄三四五班のなせと地の修正工事をなす九時二十分にして十分休憩をなし十時五十分にして再び休憩す、林苑の方は新らしく線路を布設してトロを以て黒土を運搬す工事漸く進捗して諸生の意氣盛なり正午辨當を使ひ午後〇時四

十五分就業偶に森技手は巡視して吾等の工事を督勵される作業中時事新報記者渡邊清造氏來訪され高木技手林苑課係員目黒力松氏の巡察もあつた二十十分小憩の時八里氏に案内されて一同は大樹木の移植を見學した二時亦もや鍬を取りて夕刻に至るまで大いに努む雨多く降り來る罷業午後四時器具を整頓し堵列して歸路に急ぐ時は雨益々降る代々木練兵場には歩兵一ヶ中隊勇まじき練兵をなすつゝありたり、五時三十分一同夕餉の卓を圍みて醍醐味を賞す今宵亦時事新報を惠投せられ懐しい記事があつた、午後七時雨を冒して千駄ヶ谷なる静岡駿東郡青年團の宿舍に講演を聴きに行く静岡青年團は吾等の到來を歡迎された座に着くや直ちに田澤總務課長の紹介にて内務省事務官法學士川西實三氏の講演に移る氏は前田參事官の後輩で曾て静岡縣駿東郡に郡長たりし仁じて前田參事官とは兄弟も管ならざる親交ある人なりといふ落着きのある音聲にて淑やかに自家の實験に就て語る。昨晩も前田先生の話を聞いて自分の心の奥に何だか説明の出來ないある一つの感じを以てゐま

すうれに就て私は自分の經驗に就て話して見たいと思ふ、私は田舎の百姓の家に生れてお父さんやお母さんに育てられて小學校へ出して貰ふうれから中學へ進むうして知慧と道德とを教へられたりれで中學時代の私は眞面目な生活をしたいと思つてゐたがうれから東京へ出て高等學校へ這入つた頃どうしても物をもつと根本的に考へなければならぬと云ふ事に氣がついた學校へ行く本を読む講義を聴く遊ぶといふ風に唯ざわ／＼として騒がしい日を送つてゐる丈では物足りないどうしても自分自身が静かな心持ちになつて奥深いごん底を知らなければならぬと思つた當時私は黒岩涙香氏の天人論といふ本を讀んでゐたせいでもあろうがどうしても日常のざわ／＼した生活から離れて自分を静かに考へて見なければならぬといふ心に一つの動搖を感じた、高等學校で一所に居る友人が毎朝早起きをして何處へか行つて見なくなるとうして暫らくして歸つて來る何をするのか解らないけれども其の友達は何となく落ち着いて居る不思

議でならないから一體毎朝何をするのであるかと思つて跡をつけて見たると一高には向ヶ丘といふ高い見晴しのよい處がある静かな朝朝日の昇る處でも見ると何とも言へない景色である。あの丘の静かな處へいつて一人でチャンと静かに座つて冥想してゐる成程偉い事をする自分もして見ようといふ氣になつた朝まだき人が寝てゐる中に一人で静かな處へいつて自分は何であるかといふ事を考へるうして自分が生れて來て大きくなつて死んで行くといふ事を考へるうせ晩かれ早かれ死ぬには決つて居る事であるがうの事をよく考へて見なければならぬ死と云ふ事はどうゆうものであるかそれをよく見究めねばならぬうれがチャンと解つて來れば始めて何もものにも怖れない本當の力が出て來るので有る善に對しても美といふ事に對しても自分の心の目を開いて見る事が出來る一高に支那から留學した志春水といふ人があた一高の春の櫻の花の盛りは何とも言へないよい景色で有るうれを志春水といふ人が見られてゐると向ふの方から

ならばよさうなものだのにつまらない喧嘩をしたり奪ひ合ひをしたりするのであろうが米騒動が起る工場職工の同盟罷業が起るといふ様な事はいくら政府や宗教家が物價調節や道德論を叫んで見た處で此の根本問題が解決されなければ決して止むものではない、ロシアは今非常な革命で大騒動をやつてゐるけれどもいつの革命でもさんざ騒いだあげくは矢張り互に譲り合つて仲よくして行かなければならぬといふ事が歴史のちやんど繰り返してゐる處であるうか諸君は此の点に考を致して常に底力を養ひ充實した生活をして青年が中心になつて愉快な社會を造るといふ事に力めて貰ひたい。

と眞摯なる活教訓であつた講演が終へてから川西先生は座興として曾て前田參事官が我が利根に郡長たりし時代沼田行の際旅の無聊を慰むべく澁川にて赤々と店先に並べてある柿を買はんとして價を問へば澁柿なりとて終に得ずうの失敗を一首の狂歌に讀み當時前田先生の處へ澤山客が行くので宿帳が作つてあつた沼田に行つてうの宿帳へ其の

「春爛漫の花の色」など言ふて歌つて來たると志春水といふ人は地上の天國で有ると言ふて歎んだらうで有る。

皆さんが御解りにならなかつたか知れないが要するに日常のわざ／＼とした生活から離れて靜かに物を根本的に考へて人間の一切の執着から離れる事が出來て始めて何物にも怖れない底力の有る人になれるので有ると思ふので有る。

あの次に話したい事は餘りに世間の人は他人行儀に過ぎるなせもつと仲よくしないであらうかといふ事で有る假りに一例を申すと唯今炊事で此の大根は安いとか高いとか好いとか悪いとか言つて切つてゐるけれども明日の朝になれば皆さんの膳の上から腹の中へ這入つてちやんと自分になつて了ふので有るうれから空氣でも水でも皆ううで有るこんな事は私が言ふ迄もない少し生物學を習つた人は誰でも直ぐ解る事であるうれだのになせ人間は自分の都合のよい事許り考へて人の迷惑を顧みないのであらうかもつと仲をよくして此の世の中を愉快のものにした

歌を書いた處今も度々笑はれますと利根の回顧を話された歌に曰く

いかほど問へば思はず愧かき

ぬまたどねがはじ澁かはの柿

とて伊香保沼田利根川路澁川の讀み込みの狂歌である。

八時四十五分千駄ヶ谷より歸りて快眠に入る。

十二月十六日 火 晴

起床午前六時三十分洗面の後身を清め心を清めて各個に宮城大廟を遙拜し七時朝餉をなす今朝も亦雪は夜園道路屋上を悉く淨仕した定刻前作業場に詰めかけて八時二十分に始業した怪しかりし天は漸く雲切れ霧失せて清風と白日を送り來る九時三十分休憩して亦努力す作業中森技手造營局雇土佐林浩氏の巡察があつた午前十一時四十五分各班大地に簾を敷きて晝餐を喫す午日豊かに照りて暖氣春の如くなり小野副團長より各員一同にミルクキャラメル一個宛を惠投された午後〇時三十五分寶物殿の後方林苑に於て森技手り夜園の設計に就て説明があつた一時五分就業中山林苑課長内田參

事の巡察もあつた午後二時四十五分休憩又活動罷業は四時十分であつた歸路灰色に暮れし西空芙蓉の峰の屹立せるを仰げば明日の天氣に望みがあつた夕餉五時後多くは入浴に行く今日も亦時事新報社より同紙を惠投された夜は天晴れて星斗花の如し今宵も亦静岡縣駿東郡奉仕青年團宿舍に聴講に行く田澤先生の司會にて静岡青年は「心の力」を朗誦し續いて靜座法をした後田澤總務課長我が青年團の二大欠點に就て力説された。

一我が青年團の二大欠點に就て

私は青年團に非常に興味を持つてゐる一人である故に暇さへあれば各地の青年團の會合に出て行く埼玉千葉茨城群馬縣へも赤城に修養團の中堅青年の天幕講習會に行きまじつてから利根郡へは行きませんが五六回講演に行つた従つて青年團に關しては成るべく多く話して見たいと思ふが時間に限りのある事であるから今晚は我が青年團の二大欠點といふ事に就て暫らく話して見たいと思ふ其の最も著るしき第一の欠點といふのは自治的でないといふ事である第二は社交的

らずしも模範的の行爲許りではない今日から見れば寧ろ笑止に堪へない様な事がないではないが當時の社會を背景とした青年團はそれ以上に出不いといふ事は已むを得ない武士階級の青年團としては薩摩の健兒社は最も模範的のもので専ら修養方面に力を用ゐて居た此の健兒社は青年團の沿革史上に優越なる光彩を放つものである健兒社に於ては年中行事として十二月十四日赤穂義士が主君淺野二匠守の敵吉良上野之介の陣屋へ討入りして首尾よく本懐を遂げたといふその忠誠を紀念して青年の志氣を鼓舞する爲に其の夜は徹宵して義士銘々傳を輪讀する濟むと先輩の訓話がある亦膽力の試験をやるうして黎明粥をすゝつて歸るといふ事をやる、五月二十八日には曾我兄弟が父の仇上藤祐經を富士の裾野で夜討ちをした晩である此の晩は近所近郷から古傘を集めて来て河原で之れを焚いて先輩が訓話をする、亦九月十五日は藩祖島津義弘公が關ヶ原の戦に於て西軍の石田三成に屬して非常に奮戦したが敗れて退却しなければならなかつ

方面の缺陷である。

抑も、青年團なるものは青年の必然の要求から生れた青年團でなければならぬ然るに多くの人は我が國の青年團の沿革を知らない爲に動もすれば青年團は外國から輸入したものであるかの様に思つて居るものが少なくない爲に自然と青年團に缺陷を生ずるのである故に先づ青年團の缺陷を改めんとすれば青年團の沿革を知らなければならぬ。

固より我が國の青年團の起りは決して外國に眞似たものではない遠く鎌倉時代に若連中といふものがあつて當時の社會に有力なる活動をした次いで徳川時代には非常なる發展をした當時に於ては青年會青年團とは言はないで壯健とか若衆若連中とか言つたのである其の時代には地方一般の庶民階級の青年團と武士階級の青年團とがあつていづれも社會の中堅となつて有力なる團隊的活動をした社會的の制裁なども非常に嚴格なもので長幼の別などは全くよく秩序のあつたものである當時の若衆若連中の企てた事は必

たけれども戦は勢である敵に後を見せて退却するのは武士の恥辱である敵の中軍を突いて一死を潔よくせん敵軍の中央を突破して退却した此の日青年に甲塊を着けて伊集院なる妙圓寺に五里の道を往復するこれを妙圓寺詣でといふのである藩祖の苦戦を回顧していつかは此の怨み報いてやろうと志氣を鼓舞するかくの如くに鍛練して來た氣魄が薩摩の健兒にはある明治維新に入物を繰出したるも健兒社の力が預つてある健兒社には又學舎といふものがあつて文武の鍛練に力めてゐる今でも三月三日には青年が悉く山野に旅行して鹿兒島の街には青年が一人も居ないといふ有様であるこれが我が青年團の沿革である。

斯くの如く青年團なるものは我が國が本家本元であつて決して外國から輸入したものでない我が青年團は世界に誇るべき光彩があるのである外國にも青年團隊が無いでは無い獨逸の青年團は今次の戦争にも有力な活動をした獨逸の青年團はコルツ元帥が日露戦争の時我が國の青年團

の活動を視察して歸つて作つた青年團である英國の少年義勇軍といふ様なものも矢張り其將軍が組織したものであつて總て外國の青年會は有識者政治家或は軍人とか云ふ人が政策をして造つたものである、然るに日本の青年團はどんな田舎に至るまで組織されて地方々に活動して居る日本は田舎に寧ろ拘すべき所が多くある、故に我が國の青年團には外國の青年團に優れた三つの特色がある其の組織が決して無理に命令して作つたのではない必然の要求から生れて自然に出来た青年團である従つて長官の監督を受けなくともよく秩序があつて自治的である而してどんな片田舎に至るまで自發的に組織されて有つてよく連絡し提携する獨逸の青年團の如く政策の爲に作られた青年團は勢ひ中央的であるといふ事を免れない従つて團員相互の協議提携といふ様な横の關係は少しもないと言ふ位であるこれが我が國の青年團の第一の特色である。其の次は外國の青年會は修養が特殊であるが日本の青年會は修養が一般的である獨逸の青年

團は軍國主義の教育鼓吹に偏重してゐる亦アメリカには基督教青年會といふのが有るがこれは宗教運動の團體であつて修養が特殊である我が國の青年團は諸君が郷里に於て活動して居る様に風紀の改善とか或は道路の修繕をやる娛樂の機關を設ける農業上の改良獎勵を計るといふ様に總て修養が一般的であるといふ事が第二の特色である。

それと更らに我が國の青年團が外國の青年團に優れて居る事は社交的であるといふ事である日本は田舎に行く程拘すべき情味があつて青年團が中心になつて鎮守の祭りをやる旅行をする娛樂の機關を設けるといふ様に總て種々な活動を團體でやつて地方の美風良俗を作り地方の發展を計るといふ事が第三の特色である。

斯くの如く我が國の青年團は青年團の本来本元であつて決して外國から輸入したものではない世界に誇るべき光彩のあるといふ事を自覺しなければならぬ。

然るに私共が度々青年會の會合に出かけて行く

が青年會が本當に自治的に活動してゐるかどうかといふ事を疑はざるを得ない。

一例を擧げて言ふと先づ講演會に頼まれて東京から千葉なり前橋なりへ汽車で行つて見ると停車場へ出迎ひに出てゐる人は郡長とか村長校長といふ様な人達で青年は一人も出て呉れないから會場へ案内されて控室に行くといふ張りの村會議員とか警官とか村の有志が接待してくれる青年會の會合だといふに肝腎な青年は一人も居ない學校が休みであるのに態々女の先生を頼んで来て小笠原流か何かで茶を出してくれる私は誠にうの御茶がうまくない不働勞してゐる青年のタコの出た様な手を出して呉れ、ばうれが何よりの御馳走である、それからの日のプログラムを見ると午前十時開會で會場の方では己に會務の報告とか會計報告から議事をやつて居る自分はその様子を見たいと思つてもう始まりませんかと催促をするけれども仲々案内して呉れないまあ何かまご／＼して居ますと言つて曖昧な話で時間を過ぎて了ふ早く自分は青年に遇

ひたいと思ふ戀人に少しも遇はしてくれないから自分は廊下へ出て一人の青年を見つけて君の青年會はどんな事業をしてゐるかと聞かせることほ／＼として返答もしない之れは未だ愧かしのだと思つて向ふから来る元氣のよさうなものにオネ君君の青年會はどんな事をしてゐるかと聞くといふは何か確つかり知りませんと言ひ抜ける頗る要領を得たりで有る斯くの如く會員が自分の青年會が何を志してゐるかどう云ふ事業をやつてゐるのか少しも知らない郡長村長校長といふ様な人達が帳面の上で會員が幾人會則がどうでこれ／＼の事業をしてゐるといふ様な譯ではこれ青年會に非ずして先生會である是れでは誠に青年會として嘆はしい譯である。

こんな事で午後の講演會になる今度は青年に遇へると思つて喜んで會場へ出かけて行く以前の方には椅子が並べられて村長始め學校の職員村の有志といふ様な人が居るうれで本尊様のく年の方は後の方に小さくなつて固つてゐるうれか

らサア諸君モット前の方に出て聞く様にと言はれて始めて前の方に進んで出ると言ふ様な譯である折角自分の青年會の會合で有るのに一々指圖をされなければ行動が出来ぬといふ様では迎も青年會の發展は覺束かない、青年會の會合か何時何日にはあるといふ日には會長始め幹部の人が一々分擔を決めて出す會員は自分の受持の事はちやんとやるうして人から指圖を受けなくとも萬事がよく整ふといふ風にしなければならぬ青年會の本来本元である我が青年團に尙ほ且つかゝる欲陷のある事を甚だ憾ろとするものである。

次に社交的方面の欠陥といふ事でも有るがどうしても青年團の會合をもつと愉快なるものになければならない何時何日には青年會の會合がある其の日は朝から愉快に一日やろうと言つて不斷から待つてゐて脚んで仕事をするといふ風にならなければならぬ先が先き程話した様な先生會で無味乾燥の集會であれば一度は行つて見たがつまらいからといふ様な譯で段々引込思

しい思出も何も無い國民に國家を呪ふといふ様な危険な思想の起るのは當然であるロシアあたりの國民に過激思想とか虛無主義とかいふ様な恐ろしい考の起るといふ事も理由のある事である。

諸君はどうか以上話した青年團の自治的方面と社交的方面の欠陥といふ事に充分省みて郷里の青年團に一般の光彩ある進歩と發展とを計つて貰ひたい。

と縷々として説かれ熱心なる先生の講演に感動せり九時辭した。

十二月十七日 水 晴

起床午前六時三十分洗面して各個に宮城大廟を遙拜す、朝餉七時天は晴れたり氣は澄みたり参道の途途々木練兵場に於て西方遙かに富士の高嶺を仰ぐ八時始業工事益々進捗して漸次仕上げとなる八里氏は東奔西走さる小野副團長も上衣を脱いで仕事に手傳ふ九時四十五分小憩、中山林苑課長が巡察に來た正午晝食、天は晴れたれど風強し諸生漸く工事の設計を了解して益々興味出づ八里氏が

案をするといふ事になつて了ふこれでは折角青年會の企ても用をなさない、青年會は其の地方々々に仍つてチャント年中行事を決めて置いて新年には茶話會の親睦會を催ふとか秋の彼岸には鎮守の祭りに兼ねて素人角力をやるとか亦時には大飯の食ひこ會をする事もよいとして修養とか鍛練とかいふ縦の事許りではない親睦して娛樂をやるといふ横の方面にも活動しなければならぬ。

人の頭に青年時代に享けた印象位鮮かに記憶されて居るものはない誰人でも青年時代の樂しかりし氣分喜ばしかりし印象を長するに及んで忘れて了ふものはないそれがロシアとか瑞典威諾といふ様な國で冬半年は雪に埋れてゐて荒んだ生活をして國民に本當に青年時代の樂しい思出など云ふものはない、昔鎮守の森で友達と樂しく遊んだ思出は他郷に在つても猶戀々として忘れる事は出来ない此の精神は豊郷の念となり總て祖先崇拜の念を増さしめ豊國の精神となるのである、これに反して青年時代の懐かしい樂

昨日まではあまり抄らない様な氣がして實は悲觀しましたかもう皆さんが仕事を覺へたせいか大層抄つて來ましたと言つて喜んで居つた。午後〇時四十分就業すれば午後に至りて風は益々強く寒けれど諸生大いに奮ひ山形漸く整ふ完成の日近く快言ふべからざるものが有つた森技手の巡視有り本郷技師の巡視有り、風寒くして晴天なれば今日の寒風は吾等の仕事に取つて大なる思惠で有つた罷業の少し前明治神宮造營局囑託林學士長見健一氏が巡察に來られた。

晴天の落日は赫灼として天に餘榮有り甲武の連山紅に染まる時罷業して宿舍に歸つた時事新報は利根青年の奉仕と四號活字の見出で吾等の行動を掲げ惠投して來た感謝の至りである。

午後五時三十分早々と夕餉を済し入浴をなし今宵亦星まばらなる天を仰いで千駄ヶ谷なる駿東郡奉仕青年團の宿舍を訪れて田澤書記官の執列なる講演を聞かた大要を左に記さむ。

青年の修養方法に就て二案
一山下信義氏の一事貫行

一山本瀧之助氏の模範日

今晚は青年の修養方法に就て話して見たいと思ふ、これは固より自分の發案といふ譯ではないが青年の修養方法として最も有効なもので有ると思ふ二つの修養法を受け賣りするので有る。一つは山下信義氏の提唱された一事貫行法で一つは山本瀧之助に依つて主唱された模範日で有る。

先づ山下信義氏の一事貫行の修養法といふのは何んでも一つの事を毎日繰り返してやると云ふ修養法で有るごんなやさしい事でも是れを繼續してやるごいふ事は仲々容易なものでないの繼續してやるごいふ事が非常に意志の鍛練といふ事になる何人でも意志の鍛練が出来ればそれは偉大なる力で有る漸行ごいふ事は非常な必要な事であるが繼續は更に必要で有る。

故に一事貫行の修養法はある一つの事を繼續してやるごいふ事が大切で有るから始めのうちは何んでも一つでよい一日の行事があまり澤山有るとあれも駄目これも駄目でついに蛇蜂取らず

になつて了ふから始めは太陽の出る前に必らず

起きるごいふ事でもよい亦冷水浴をするごいふ事でもよい毎朝神様を拜むごいふ事でも必らず日記を書くごいふ事でも一つ題目を選んで之れを實行する繼續しなへすれば何でもよい持續するごいふ事が非常に六ヶ敷いもので有る、まして一年も續けばもう其の事は大丈夫斷續する事が出来るううしたら亦一つ題目を値やしてやる亦それが出来る様になれば次の題目を決めて是れを實行するこれが山下先生の主唱された一事貫行の修養法で青年の修養方法として最もよい方法で有ると思ふ山下先生ごいふ人は非常に真面目な御方で有る、或る時地方へ講演に出て此の一事貫行の修養法を話した、よく地方にはある事であるが講演會か何かで話しをするのを何とか言つて言ひ返さなければ承知の出来ない人がよく有るもので有る、矢張り山下先生に向つて或る人が冗談半分に「私は晝寝を一事貫行の題目にして實行しましせう」と言つたすつと山下先生は非常に真面目な人で有るから毅然と

してあなたも男子私も男子あなた態度實行なさい私亦來年伺ひますと言つたすると其の人は顔色なく誠に申譯がないと言つて謝したるして真面目な題目を選んで一事貫行の修業者になつたごいふ話がある、一つの事を繼續してやり通すごいふ事は精神の修養上非常に力の有るもので有る、此の修養法に就ては一事貫行の修養表を作る事も面白いと思ふ或る地方の〇年會では會員全体が表を作つて互に戒め合つてゐる處も有る兎に角實行が出来さへすればよいので表を作らないは問ふ處でない修養には繼續ごいふ事が最も必要な事である。

次ぎは模範日の修養法であるが模範日は亦向上日とも言つてゐるこれは彼の一日一善を主唱された山本瀧之助氏の提唱された修養法である。模範日は毎月何れの日が一日を特に修養の日として定め此の日は朝から晩まで緊張した氣分で聖く楽しい美はしい生活をなし其の日を自分の爲に模範の日として翌日も亦其の翌日も此の日に近づけようごいふ修養法である。

此の模範日は自分の過去に於て最も深い印象を受けた日を選ぶがよいと思ふ例へば自分の尊敬してゐる先生から話を聞いて自分が發憤したりうゆう或奮興起の日を選ぶごいふ事が最もよいと思ふ亦先祖の命日でもよいご自分の誕生日でもよい諸君の中には己に結婚した人もあるであろうと思ふがその結婚の日を記念として模範日にするごいふ事もよいと思ふうして其の一日は全く不斷と違つた聖い楽しい美はしい生活をして向上する日とするのである自分のこれ迄悪いと思つた癖も此の日から斷ち切り亦いつからか始め様と思つてゐた善事は其の日から始めるごいふ事にするのであるうしてこれも段々日數を増して緊張した一日を送る事が出来たらばうごに別個の興味があり實行の方が數々加へられて來る事だと思ふのである、今晚は特に青年の修養方法として此の二つを推奨して諸君の參考に供る次第である。

と述べられ最後に熱烈なる獅子吼をされた。人生は永遠に理想の進求である生き代り死に代

り理想の實現に力めなければならぬ諸君は唯々明治神宮に奉仕したといふ丈では物足りない諸君が歸郷して人の賞讃を受けたり新聞紙に評判を謳はれたりする丈の事であるならばそれは誰でも出来る事である唯々うれ丈に止まるならば吾々が明治神宮に青年の奉仕を思ひ立つた計畫は失敗である却つてそれは諸君の虚樂心を凌る許りで有つてうれは墮落である、諸君は此の奉仕の機會に於て一大飛躍をなさねばならぬ、前途に赫灼たる光明を認めて精神的に一大發展を爲さねばならぬ、どうか諸君は何か新しい決心をして欲しい。

諸君は中堅青年である模範青年であるといふ丈ならば質朴で眞面目で働らいて剛健で正直であれば足りる然し乍ら諸君はうれ丈ではない諸君の責任は更らに重いロシヤの百姓や白耳義の中産階級を見よ般鑑遠からずこれが證明してゐるロシヤの百姓は怠惰ではなかつた白耳義の中産階級は柔弱ではなかつた然し彼の國は亡びて了つたうれはごうした譯であるか、國の一大

らぬ、諸君は若し今度の東京の禮子は何だか怪しいと思つた時には早速郵便局から貯金を拂下げて停車場に駆けつけ陳京へ来て自分が此の人ならと思ふ人の處へ今度の事はごうしませうと相談に行くといふ決心をしてゐて欲しい。諸君が明治神宮の奉仕は誠に一生の態度と決すべきの時である諸君はどうか日本の國の前途をよく考へて國家の中堅となつて充分なる奮闘して貰ひたい。と烈々たる氣魄を以て青年の進路を力説された諸生皆感奮興起奉仕献身の眞意義を悟り胸宇に碧血の高調するを覺れた。

後「心の力」の配布を受け田澤先生の先導にて第一章を朗誦した時に時事新報記者渡邊氏寫眞師を伴れ來り駿東郡青年團は靜座の姿を我が青年團は「心の力」朗誦の處を撮影した時に九時直ちに辭す駿東郡青年團は就床ラツバを吹いた一同歸舎して早々就床した。

十二月十八日 木 霧

午前六時半起床朝の寒冷は心地よき程に強くあつ

事といふ時に自分の身を投げ出して盡すといふ覺悟がなかつたからである何か事のある時に手を拱ねて傍觀してゐる様なものは役に立たぬけれどだからロシヤやベルギーは亡びたのである。諸君は今後各士の話を聞くにしても抽象的では本當の物にはならない凡て自分の事だと思つて本當に自分の進退を決めなければならぬ實に今後の日本は諸君の力に待つ所が多い諸君の責任は重い決して傍觀してゐる様なものは駄目だ一身をいつでも投げ出して何か國の爲になるといふ準備を怠つてはならぬ、今の時代は全く諸君が態度を決めるべき時である。

悪い者の仲間入りをして國家を毒するか、善士となつて惡と戦ふか、然らずんば手を拱ねて傍觀するかの三つである。諸君はよもや悪い者の仲間入りをしうとは思ふまい善士となつて戦ふには迫害も受け様し攻撃もされ誹傍も蒙るであらう然し正義を信じて正々堂々と行はざるは男子の取るべき道でない諸君は良心の命する處に向つて進まねばな

た洗面後各個に宮城大廟を遙かに拜む朝七時早々に神苑に急ぐ代々木練兵場の朝はよく晴れて西芙蓉の銀冠に旭日映じ壯美筆舌のよく盡す所に非ずである、八時作業に取りかゝる茲に努力七日天候順にして作業の工程甚だ都合なり青天井の下シャベルを振ふ若き青年の眸に光り有る、九時四十三分休憩、八里氏は各所を巡視して忙しく其の監督に至れり盡せりである森技手中山林苑課長が巡察に來られた十一時三十分頃第一班の宮内武道君がトロ押し作業中誤つて右手人指中指を負傷し直ちに千駄ヶ谷なる伊東醫師の診察を受けた。

正午豊かに照る日の下で晝餐を喫し一時半各作業に取り掛る渡邊時事新報記者今日亦寫眞師を伴れ來りて築山修業中の光景を撮影した、午後三時休憩時に一人五個宛蜜柑の配給を受く動もすれば自他の本末を忘れて不平や愚痴を言はんとするは小人の習ひであつて淺間じき事である我等に己に時間に於て豫定の日數を半ばに奉仕した然し願ふすると實際の成績は摩つてゐない

甚だ低くある幹部が朝夕の祈りは何とも感謝に堪ぬぬ幾んの數日を奮勵努力克くつとめ働かねばならぬ態で本郷技手が巡察に來る林苑課長雇江口日出松氏も巡察に來られた、罷業四時十五分諸生が最後の十五分の活動には殊に力があつた代々木原頭墓溝一抹の夕景に酔ひつゝ歸舎し五時半夕餉の卓に就く幡代小學校長山口鐵次郎氏も來訪されて夕餉を共にした夕餉の終らざるに小野副團長から今日林苑課長からの話によると諸君が努力されつゝある築山を利根ヶ丘と命名するから豫定の二十一日迄にはどうしても竣工する様に努力して貰いたいといふ事である而して利根ヶ丘の名札を立て、紀念撮影でもすれば至極結構な事だと思ふ是れには是非諸君が一生涯懸命努力して竣工さして貰ひたいと希望を述べられた諸生は異口同音に賛成し奮闘を誓つた、後高井團長から野中郡長より諸君一同に宛て、慰問督勵の書翰が來たとして朝讀された誠に感謝に堪ぬぬ。

今宵も亦時事新報を惠授されて本縣會の模様など

を見て嬉しくあつた。七時三十分田澤先生が來訪された先生は一寸挨拶丈して歸る心算であつたと言はれたが我が青年の懇請に仍り折角來たので有るからとて「心の力」に就て種々なる例を擧げて話された。

今夜は「心の力」の話をする諸君が時計の鎖か或は紐のついてゐるのを持つてゐる人は出して右の手で真直に時計をつるして之れを左右に動かして見ようと思つてよく見つめる（此の時、時計のあるものは真似をした左右に動く様になつたら今度は前後に動かして見ようと思つて見つめる（一同それに倣つて時計の左右前後に自然に動くといふ事を實驗した）サア諸君此の時計が前後左右に動くといふ事は何うゆう譯であるかと三四の人に質問されたが要を得た答はなかつた。

これは自分が左右なら左右前後なら前後と心を一にして念すれば自然に筋肉の細胞がその方向に運動する事に仍つて別段動かなくても動く様になるのであるこれが心の力の微妙な働きである。

る

それから昔から火事場の女の力といふ事を言ふが不斷は逆も持ち上げる事の出來ない様な重い物を結構持ち出したといふ試はいくらもある人はどうしてもしなければならぬといふ急所になつて來ると意外の力が出る不斷は出ない力が事に遭遇すると出て來るこれは心の力である。

次にこれは私の親類の人が醫科大學にゐて近頃其の人が聞いた話であるが想像妊娠といふ事がある有つたられば或る婦人が嫁に行つて妊娠したと思つてから月經はないし段々腹が大きくなつたので産婆に見て貰つたが慥かに妊娠であるといふ事であつた然し十月たつても十一月たつても子は生れない腹は段々大きくなる支方なしに大學病院へ來て見て貰つた博士が幾人見ても妊娠ではないといふ事になつて博士から想像妊娠であるから決して心配する事はないと宣告されると其の明日から段々元の様に腹が小さくなつて仕舞つたといふ事で甚だ面白い話で有るが事實

で有る。

それからこれは有名な話で獨逸のコッポ博士はコレラ菌を發見した醫學界の一大權威である當時コッペンデルといふ醫學者はコッポ博士のコレラ菌に就て互ひに學問上の争ひをしてゐた或る日の事コッペンデルはコッポ博士の培養してゐた試験管のコレラ菌を一呑みに飲んで了つたがコッペンデルは一晝夜経つてもコレラに罹らないからコッポ博士の發見は嘘であるといふであつた然しコッポ博士の發見したコレラ菌は確かに今日の醫學界には認められて居るもので有るりのコレラ菌を飲んでもコレラに罹らなかつたといふ事はコッペンデルの心の力が強かつたからで有るといへる何でも信づれば克つといふ事が明である。

昔の武士はよく切腹をしたら腹を切つて痛いといふ様な事では切れるものではない亦忠臣が主君を諫める爲めに包み腹といふ事をやつた腹を切つて白布で巻いて主君の前にしづ／＼罷り出で「承はりますれば御前様には日頃の御行狀あ

まりに御放しに渡らせられます様に存じます若し御健康を損なます様な事どもありましては御先祖に對して申譯もムりませぬ引いては一門の不幸にムゐますと存じまして少しは御差扣へ下さいます様に手前等差し出がましようムゐます失禮の儀は幾重にも御許し下さいます様に覺悟は此の通りでムゐますと腹をさらりと出して御諫言を申上げるごいふ様な事は痛いごいふ様な事では出来るものではない自分の主君を思ふごいふ強い決心があればこゝろ痛くも何でもない出来るのである

心の力を互に持つてゐてもこれを養はなければ充分の働きをなさない 酒をやめる事が出来ないごか煙草をやめる事が出来ないごか云ふ人は出来ないのではないごか止めよう止めよう腹に力を入れて止めやうとすれば屹度やめる事が出来る

世の中の多くの人は出来ない出来ないご頭から決めて了ふから出来なくなるのである明日の早から早起きをきつとやわらうすれば出ぬない事

受持兒童の永田俊雄が過つて玉川上水に墜ちたのを救はんとして身を以て濁流に投じ自から激流の爲に捲き込まれて職の爲に死し救はれんとしたる兒童は却つて行人の爲に助けられた壯烈なる殉職者修養園本部幹事松本虎雄氏の話をされた松本訓導の殉職を悼みて田澤先生の歌がある

人の爲世の爲身をも捨ててふ

警ひの儘に逝きし此の身は

實に松本訓導の如きは生死利害の打算的觀念より超越した献身犠牲の活模範である

田澤先生は更らに語を次いで語る

私は昨晩一身を投げ出して話した心算である諸君はよく考へてくれ給へ日本の國は危い相提携して働らいて貰はなければならぬ

諸君は利根の奥の眞面目な青年であるごいふのではないか飽く迄悪と戦ふごいふ覺悟が無くてはならない諸君は皆名望家の子弟であるご云ふが是非とも立派な人物にならなければならぬ地方に多く人物を出すとごいふ事は國家の大なる力である

はないご思ふ最もこれも程度問題で何でも出来るごいふ譯には行かないがもう少しく心の力を養ふ事が出来れば總ての方面に實行の力が加はる事であるご思ふ汚ない話であるが誰も使所へ這入つて風邪を引いたごいふものはない

此の「心の力」は成漢學校では毎朝生徒に一章宛讀ましてゐる此の學校では寒中でも生徒全體に眞裸で静座をやらせてゐるがそれが爲に風邪を引くごいふ様な事はない

何んでも寒いご思ふから寒いのである心の力の文章は随分誇張して書いてある様な處もある我手を舉げて應げば霧は開きて鴻雁來り嶺を分けで鬘麗聚まり欣々として我を親しむ我手を揮つて去れご言へば豺狼もろの尾を垂れ鷺鳥もろの爪を包み惶々として我を避くなど、書いてありますすが心の力を養へば限りなき力を與へられて天地萬有を我が住家として楽しむ事が出来る様になるご思ふ

「心の力」の話を續けて十一月二十日永田町尋常小學校生徒を引卒して井ノ頭公園に遠足した時其の

と激感された著直な先生の口から出る一言一句は悉く吾等の肺腑に徹するものがある

午後九時二十分田澤先生は一人間い街を歸を歸つて行かれた誠に感謝に堪へぬ 後一同就寝した

十二月十九日 金 快晴

起六時外氣まだ夜色ありて美人の肩の如き月が中天に淡く光つてゐた一同宮城を拜し大廟を拜む朝餉を六時半に済ました 七時には作業場に詰めかけて焚火をして暖を取り七時四十分始業八里氏は笑みつゝ奔走される小野副團長は各班を巡視し高井團長は日毎用事の爲に内務省工務所講師依囑等のために外出し折々現場に來るのであつた

天は吾等が眞誠こめし祈りを聞きしめてか今日も亦晴天作業上これより大なる恩恵はない我が青年は利根ヶ丘の名を永遠に傳ふべく又と得難き此の光榮を完成すべく非常なる意氣込みにて力を盡す若し吾等が基礎を作つて僅かの作業を残して静岡の青年に工事を譲つて彼に困んだ名を附ける様な事が有つては我が青年は何の面目がある意氣は關東健兒の美點で有る大いに努め勵ますして有る

べけんやである

朝の程霜柱は二寸程も有つた然れども苦寒何ぞと叱咤すれば陽春の候忽ち現じて和光霽々と照るまこと天は自から助くるものを助け給ふので有る九時三十分に至りて十分間休憩をなす林苑課の測量部が来て高低測量をした

真剣に働けば日の廻るのが早な気がする十一時四十五分午餐をなす 天は青い氣は清い代々木原頭の一角に希望を語り修養を談じて大きな握り飯を嗜りつゝ虹の様な氣焔を擧げつゝ有る

齡時三十分午後の活動に入れば愈々日照りてほかと春の様な氣持ちで有つた諸生が間斷なき努力は豫想以上の能率を擧げた嬉しく有る樂しく有る午後二時より二十五分間の長休憩をした作業に取り返るや西北風起りて寒さ増さりしが諸生大いに奮ふ三時二十五分又も小憩を興へられて夕刻まで奮闘すれば行程驚く迄に進捗した完成の日は近い

中山林苑課長が来てオ、大分出來ましたねと云はれたのは吾等に取りて強い慰めの言葉で有つた本

皆さんがよく知つて居る話でありますか昔話に桃太郎が鬼ヶ島征伐をしたといふ話があるが私はこうゆう解釋をする桃は百で有る太郎は男で大将で有る鬼ヶ島は敵國で猿や犬や雉子を率ゐて敵國を破つたといふ話で有る

而して凡て人間が社會を組織して行く以上は必ず統一すべき主權者を要する然して世に犬猿も管ならずといふ語がある仲の悪い犬猿雉子の様な各々性格の違つた動物をよくこれを統一して敵を破つたといふ例話に取れる

苟しくも社會に立て事をなすには衆多を統制する事が第一である 爾れで統一には共同一致が必要である而して共同一致には規律ある生活といふ事も最も大切で有る

私は諸君が茲に來られた時班を分ち當番を決めてよく荷物を整頓し秩序の有る生活をされること云ふ事を見て散服した然るに段々日を経るにつれて亂雑に置かれる便所は穢なくするこれは諸君の爲に甚だ惜しむべき事である

私は決して巧言を言はない曾て十七年間軍隊生

郷技手森技手も巡察に來た 罷業四時二十分今日は實に愉快なる活動で有つた全力を擧げて働きたる時に歡喜有りである器具を整へて例の如く點呼を行ひ神苑を出でし時は夕陽全く西に落ちて郊外の暮色掬すべきものがあつた午後五時三十分夕餉をなす

今宵は林苑課係員及藤倉電線會社の係員を招き懇勞を兼ねた懇談茶話會を催ふした主賓内田參事を始めとして森技手八里氏あり藤倉方よりは葛岡氏中川氏の外に三人の來賓があつた 一同着席するや高井視學の挨拶にて開會となつた内田參事はいて我が青年の今回奉仕の擧を賞讃され尙將來はに對して督勵の言葉を下された

森技手は最も深き研究と造詣とを傾倒されて庭園に關する古今東西の沿革を講演されて庭園の如きに至つては全く門外漢なる吾等にも興味盡きせぬ話で有つた八里氏は亦日頃の信譽の情を披展して感謝に餘る温情を以て挨拶の辭をされた次いで葛岡氏の挨拶あり氏の卒直なる言説には千重の價がある感謝である左に一端を記さん

活をして記憶して居るが檢閲の時などに第一に見るのは便所で有つた軍隊でも地方の家庭でも變りはない便所の潔清な中隊は整頓してゐる便所の清潔な家庭は必ず規律の有る生活をしてゐる健全なる家庭で有る諸君は此の邊に一層注意して貰ひたい

と一犬痛捧を興へられた誠に我等が將來日常の規範ともすべき大なる教訓で有つたこれに應つて小野副團長の所感演説有り高井團長は更らに我が利根の郡況一般に就て話し

我が利根は一帶に山紫水明の地で温泉は數十ヶ所に濼々として湧き出で近く上越鐵道も開通する事で有りますから若し別荘でも御建造なされます事ならば及ぶ丈の便宜を取り計ふでありますと愛嬌を言ふた一同は茶菓を喫し一宵の行樂を歎んだ九時二十分主賓辭して歸られ後閉會となり後始末をして快眠を貪る誠に親福されたる一日であつた

十二月二十日 土 晴

曉鐘詩興を促す起床六特宮城大廟を遙かに拜しま

つれば朝の生氣は入をして新たならしめ昨日の疲勞倦怠願慧世惡の一掃して精進清潔の氣を起さしむ朝は誠に心の洗濯の時である六時四十五分朝餉を終り神苑に向へば代々木練兵場の長富士山西に高く聳りて白く言ひ難き景色である英氣激激胸宇に躍る此の樂しさは此の經驗を持ちし人ならでは知る事が出来ない

今日は利根ヶ丘の完成の日なり定刻の前より諸生が筋肉は活躍して止まぬ何たる幸か天は愈々朗かにして静かなり七時四十分作業に取り掛りて諸生大いに努力奮闘す快之れに優るものあらむ九時半小憩して亦力む作業中上毛新聞社東京支局員寫眞師をつれ來りて一同築山の一角に作業の光景を撮影して去つた活動は愈々佳境に入りて今日は天勇は未だ來ないかといふ人さへなかつた天勇とは吾等が賄をして呉れる人也午飲を毎日擔いで來るので有る故に毎日午餐近くなれば難とはなしに天勇はまだ來ないかと言ふ聲を聞きたるに今日の日はうれを聞かぬ諸生が活動は確か白熱してゐたのだ晝餐十一時四十五分後大いに休む午后は亦

め心を淨めて東に向ひて宮城を拜し西に向ひて伊勢の大廟を拜し吾等が行を爲し遂ぐる事を得させ給へと祈るのであつた朝餉六時三十分早々支度を整へて一同が此處を先度と參道した諸生は昨晚の休養に精力を養ひし爲奮闘努力の活氣が満身に満ち充ちてゐた天は曇り勝ちであつたが降りもしない降らないといふ丈で大なる思恵である感謝である七時四十五分といふに一同が赤土出しに一擧の勢力である何と勇ましい活動であつたらう
十時三十分には赤土出しを終へて小憩し利根ヶ丘の手直心に取りかゝつた中山林苑課長森技手は巡察に來て觀喜の色を見せた最後の仕事は土固めである一同四列縦隊になりて駆足行進をなし十五間續行して皆汗ばんだ亦横隊になりて駆け足をなし全山足跡を印せざる所なしといふ迄に固めた更らに蛸づきをなし終了の瀬戸際の仕事は益々見事に出來て愉快であつた十一時四十五分午餐をなす天は曇りて三分の雨を催した野中郡長は作業場に來訪されて諸生の勞を愉はれた午後一時作業に就き更らに築山の修正に力め午後二時全く利根ヶ丘

新らしきシャベル六挺ジョリシ九挺モッコ五枚の器具を増補されて愈々充分なる活動が出來たかくして大体に於て築山の工事は終了し午後二時二十分小憩し五六七班赤土運搬に應援して益々意氣込み三四班にて残りの仕事をなし築山の工事は一通り終へた夕方森技手は例の如く莞爾として巡察に來りいよゝ出來上りますねと言はれた此の時嬉しくあつた罷業四時十分西甲武の連山に夕陽懸りて赫々と輝き成溪小學校の生徒某が曾て

山の手の電車の中で見渡せば

實に奇麗な夕日の光り

と歌つた直觀的の景趣があつた歸舎すれば時己に五時直ちに夕餉の卓を圍んで樂しき談話を交し乍ら食を終つた時に高井團長から今日郡長さんが上京したといふ電報があつたといふ話があつた今宵は湯屋も休み亦我が青年團に於ても修養講話もなく諸生は今日の勤勞を樂しみ感謝の祈りを捧げつゝ完樂城に入りて快眠を貧つた

十二月二十一日 日 曇

起床午前六時今日は最後の活動の日である身を清

の完成を見たり

世に快樂は多くある然し乍ら最も高尚にして最も貴き快樂は完成の快樂である汗に依つて行い遂げたるの快樂である今我が青年は十日間の努力酬ひられて永世に傳ふべき利根ヶ丘を完成すこれに優る快樂あらんやである

利根ヶ丘は永世萬古利根の山河の在らん限り畏しこくも 明治神宮の神域に動きなく残るのである吾等草奔の身を以てかゝる尊敬の地に臨み斯くも顯著なる事業に微力を致すを得たるは誠に今生の思出と謂ふべきなり 小憩後更らに餘業に力め然る後器具を洗ひ工事跡を掃除整頓した後土黒々と山形新らしく整ひたる利根ヶ丘の中腹に地を卜して紀念撮影をなす村越氏の筆にて利根ヶ丘の標札を建て我が青年三列に並び後列中央に中山林苑課長あり左右に内田參事村越屬列し高木技手森技手八里氏藤田氏江口氏ノ諸彦列席され野中郡長高井視學小野副團長全員總て四十六人誠に善き紀念の撮影であつた

中山林苑課長よりは吾が青年の努力に對して厚き

御言葉を下され野中郡長よりは亦造營局係員一同に對して感謝の辭を述べられた

うれに次いで中山林苑課長は自から音頭を取つて一聲高く我が利根青年團の萬歳を三唱された吾等は此れに合して天に響けと歡喜の聲を放つた萬歳の聲と共に會衆一同の強き手は一齊に天を指した廳て列を解き工務所に器具を收めて整列し人員の點呼を行ひ森技手八里屬託の兩氏送られて第二見張所を出て山谷の宿舎に歸つた今宵は亦山岡中佐より修養講演を承まはるべく少し早めに夕食を済ました 茲より山岡中佐の話に移る

午後五時二十分には盲目陸軍中佐山岡熊次氏を迎へた

山岡中佐は日露の役第三軍に従ひて乃木大將の旗下に忠勤せし勇將なり而して奉天の戦に於て右コマガミより右眼に敵彈の貫通する所となり爾後天色を見る事能はず職を退きて天命に安んじ今や東京府下落合村に居住して村會議員となり村政の爲め盡力せられつゝあるといふふ斯の如き人物が地方に居住して權威と識見と情誼と

れませんでした

將軍は養生などをされるには不自由のない身分であり乍ら決して食物などもよいものををれ選みにならなかつたのです戦地では冷飯が多くて汁が無い事が度々漬物といへば僅かに福神漬の罐詰がある位のもので澤庵などはほんの稀でありましたけれども將軍は常に旨まろうにこゝろして食べられました

將軍は司令部に居りましては地圖を見たり書類を整へたり事務を熱心に執つて居られますが用のない朝は馬を召されて戦線を巡察されましたけれども決して行列はしませんでした僅かに副官と傳令の騎兵を二人位つれて行くのが常で誰が見ても司令官の巡察とは思へない程でありましたうして一兵卒の働いてゐる處も親く見られまました戦線の後には野戦病院があります度々はその病院を見舞はれて傷病者を慰めたり勵ましたりしました

あの頃柳樹房といふ處に司令部は置かれましたが司令部と言つた處でその地の農家を借りて間

を以て自から奔走せらるゝは眞に帝國の爲め慶すべく感謝すべきの事なり日本帝國の元氣は是れに仍りて無限に湧き出づるものなり

山岡中佐は重みのある調子で点字の原稿を探り乍ら乃木大將に關する逸話を話された眞に偉大なる活教訓である

私は山岡で有ります昨日高井さんが態々私の處を尋ねて来て下さつて是非乃木大將に關して教訓になる事を話して呉れといふ事でありましたけれども此の山岡は話が下手でありますから聞きにくい處は赦して貰ひたい

私は日露戦争中乃木將軍についてゐましたから其の中の二三の事柄を申し上げて皆様の爲めになる事がありましたら此の上もない幸であります

乃木將軍はどんな生活をして居られたかと言ひますと毎朝薄暗い中に起きて一柄杓に足りない様な水で顔を洗ひます從卒が澤山た勧め申すと將軍は軍の時と船の中では最も水を大切にせねばならぬと言はれて水でさへ決して粗末にはさ

に合ふ丈の設備をしたもので柳樹房の生活は誠に質素なものでありました先年京都の桃山御陵の傍の乃木神社に柳樹房の乃木大將の居宅を其の儘持つて来て建てられたといふ事でありましてから若し皆様が彼處に往きまして御覽になれば如何に質素なものであつたかといふ事が御解りになる事と思ひます

將軍は非常に優しい御方で自分共が參謀に於て仕事をしつゝあると將軍が見知られても禮さへすれば直ぐに事務に取りかゝつてゐる將軍は仕事を止めてまでもてなすといふ様な事は非常に嫌はれて居りましたうれで時々内地から種々の追贈品があるに參謀の机の上に持つて来てサア御馳走が来たかといふ風で決して司令官であるとか大將であるとか言ふ様な風はしないで祖父様が孫に對する様で有りましたうれう風で有りますから乃木將軍が巡視すると常に一兵卒に至る迄乃木司令官が来たといふて喜ぶといふで風ありました

御承知の様に旅順といふ所は夏は非常に暑くて

冬は亦非常に寒いのであります。そして彼の支那といふ所は不潔でありますから非常に蚊が多いので有りませ。當時の防具として首丈這入る綿蚊帳を渡されました私は二十七八年の戦役にも北清事變にも参加しましたがその時は蚊帳といふ物がありませんから非常に苦しみました。日露戦役の時はいれが渡されて大いによかつたのであります。旅順の様な攻城戦では殊に一つ處に永く滞在するので有りませ。管理部の人が議つて大連でカンレーシヤを買つて將校以上の人々へ疊一疊敷位のもの作つて渡されました。乃木將軍の處へもそれを持つて来て渡されました。將軍はそこへ置いて呉れと言つて部屋の間隙に置いた儘少しもそれを使用されませんでした。旅順の攻撃は海陸共に計つた作成ありましたが、よく自分共も海軍の方へ派遣されたり亦海軍の方からも參謀の人が相談に來られました。或る時伊集院淳岩村利武(中將)の二人の海軍の參謀が來て乃木將軍に遣はれると將軍は軍艦生活は不自由と言乍ら陸へ上つては更らに御不自由で

ますと「山岡もう用が濟んだか」と言はれます。から用が濟みましたと言ふとそれでは暖つて話してもして行けど云はれます。から火鉢を見ると小指の先位の火が二つ位しかありません。手許の角云へば重焼パンの空箱で連もこんな(手許の角火鉢をなで乍ら)上等のものではありません。した將軍が老年の身を氣遣ひ餘りの事に思つて從卒が「も少し火を御置きになつては如何ですか」といふと將軍は「今迄莫大の軍費を使つてゐるこれからも何れ程の軍費が入るか知れん一錢も無駄に使つてはいけない戦線にゐる兵卒には少しも火はないぞ」と言つてそれで決して澤山の火を用ひられませんでした。將軍は全くかうゆう風に質素な生活をされて居られました。乃木將軍に御目にかゝつてゐない人は非常に激しい人であつたかの様に思つて居られますが決してううではないのであります。極く穩かな高德の僧さんの様な何とも云へない優しい人でありました。御自分では寒くつても疊の火位の火しか使はな

あろうから何なりと御言ひ下さい。茲は蚊が非常に多いから蚊帳の御準備がないならばこれを御使ひなさいと言つて先に營理部から渡された蚊帳を用立しました。その後南中將が陸の參謀であつた伊知地中將の所を訪ねまして乃木大將は實に準備の周到な御方だといふて蚊帳を用立された事を話すと伊知地中將から蚊帳のあつた理由を聞いて二人の參謀は非常に驚いて氣の毒に思つたといふ事でありませ。次に戦地に置きました。司令部へは命令やら傳令やら毎日電報が來る。電報も一枚や二枚ではない(手眞似をして)一束もある。であります。それを私共が譯して參謀とか司令官の處へ持つて行きます。それで早い時でも夜の九時か十時で遅い時には十二時から午前の一時二時までかゝる事があります。それで將軍は決して休まれないでいつ迄でも起きて待つて居られます。してそれを一ツ一ツ詳しく檢たしるしをつける。冬の寒い夜など行き

い朝は早く起きるが自分の部下が火を澤山使ふても遅く起きても決して叱つた事はない。本當に自分を守る事は嚴肅であつた。が人に對しては非常に寛大であつたのであります。旅順が陥落したのは明治三十八年の一月一日であります。から旅順の攻撃は三十七年の半頃から海軍と陸軍とが數ヶ月間共に協力して攻撃したのであります。けれどもその間少しも反目が起らなかつた。と云ふのは乃木大將と東郷大將とが互に謙徳の深い寛大の御方であつたからであると思ひます。凡て一般の社會でもううで有りませ。が順境の時には喧嘩はありませむが艱難に遭ふて益々和合一致する。といふ事は人物の大きいものでなければ出来ません。況して數ヶ月もかゝる様な惡寒放撃などいふ戦争の時には一層容易で有りません。それを私共も度々海軍の參謀へも派遣されました。がよく話しが纏つて少しの軋轢も出来ずに終りを全ふした。といふ事は全く將軍の人格の賜であると思ふのであります。亦將軍は非常に廉潔な御方でありました。戦争が

終つて凱旋すると宮城に参内して 天皇陛下に拜謁を仰せられまじつての時恩賜金を戴かれまじつたけれどもそれを御自分丈で拜領しないで皇宮副官に預けて置いてこれは皆に預けてやらねばならぬと云つて銀座の天賞堂に命じて金時計を作製し

恩賜を願つ第三軍

と銘を彫り従軍した部下に預けて呉れたのであります私には山岡中佐は奉天の戦に於て失明したから盲目でわかる様に引口の時計を預けて呉れましたらうして御自分でも乃木も恩賜を願つて貰ふと云つて幕僚に願つたものと同じ物を納められました

乃木將軍は亦非常に友情の深い御方でありました日清戦争の時山路將軍が第一師團長で乃木將軍は部下の二旅團長でありました御承知の様に日清戦争には勝ちましたがあの三國干涉といふ事で遼東半島は支那へ還さなければならぬ事になりましたので山路(元治)將軍は我が忠勇なる將士が血を流して占領した遼東半島を支那に

あります乃木將軍には勝典保典といふ二人の子息が有りました兄の勝典は早く金洲附近の戦で戦死されました弟の保典君は第一師團について出征して少尉で後備歩兵の第一師團副官で十一月二十六日の頃有名な二〇三高地の激戦でどう／＼戦歿されました時の第三軍の参謀長伊和地中將から乃木大將へ帛電を書くと命せられました私が私は戦地に於ても大概の文書は書きまじつたが何と云つても此の時許りは書く事が出来ませんでした

うれから恰度私は柳樹房の参謀へ歸つて吉岡副官の處にゐると一人の青年士官がはは／＼と兩手に鞆と包を提げて這入つて來ました話を聞くところの青年士官は保典君の戦友で保典君が戦死したので不及乍ら君の死體を火葬にして遺骨を間に合せの箱へ納れられと君の軍用鞆とを持つて來て乃木將軍の許に行つて保典君の戦死の模様を話し遺骨の顛末を申し上げると大將は色を改めて「保典が死んだならなせ戦死した處に埋めないのか戦中忙しい中に乃木の子供である

還すといふ事を非常に憤慨されて居りましたけれども山路將軍はさう／＼日露戦争前に故人になられました乃木將軍は日露戦後佐藤將軍など／＼議つて青山墓地に山路將軍の碑を建てられたのであります此の友誼の厚い事は最も美しい處で碑文の撰を細川潤次郎氏に託されたといふ事でありました細川氏は私の親戚なのである事を私は細川潤次郎氏から聞きましたから確かに青山墓地に建てゝある事と思ひますから皆さんが青山に御出でになりましたら御覽なされるがよいと思ひます

先にも話した様に將軍は同情に富んだ御方で第三軍の副官に吉岡友豊君といふ人がありました君は中佐で利堡の戦に非常な苦戦をいたしました／＼／＼戦死しました奥さんは福岡生れの人で有名な山座圓次郎氏の御妹さんで唯一人のお嬢さんが有りました將軍は凱旋後福岡方面大演習のあつた時未亡人の居寓を訪ねて慰め勵ましうして恩賜の金時計を預けたので有ります斯うゆう風によ／＼迄も自分の部下を愛されたので

からといふてさうされては困る亦軍用鞆の中にあるものは生きてゐればさう用もあるが死んでは何も何もいらぬからうれ／＼部下に預けてやつてくれ／＼と言はれたのでこの青年士官は顔色を失つて吉岡副官の處に相談に來たのでありました／＼で吉岡副官はうれでは將軍の意に従ふがよいと言つて直ちに遺骨の箱から頭部の大骨を一つ取つて置いてこれを後に乃木家に送り外骨は戦死の塋所に埋め所持品は全部部下に預けたのでありますうれ故今青山墓地には頭部の骨しかないであります吉岡中佐も亦偉い人でありました

乃木將軍は亦責任を非常に重んじた人で決して自分の過ちを人に嫁する様な事はしなかつたのであります第十一師團長の際でありました恰度北清事變で第五師團の援兵として杉浦少佐の率いた一大隊が支那人の物を横領した分取り事件に参加したといふ事から部下の悪いのは即ち自分の不行届の致す所で誠に申譯がないといふので職を辭して那須野ヶ原に田園生活をされたの

であります日露戦争前私がまだ乃木大将と一面識もない時でありましたが野洲の石林方面へ演習に行きました時私の家に来ないか俵飯を御馳走すると馬上から言はれた事がありましたあの時は行きませんでした非常な辛直な御方だと思ひました其の後日露戦争に従軍して乃木將軍の許について居りましたが將軍は全く悟り切つた高德な僧さんの様な御方でた側に居ても何んとも言へないよい氣持ちと感化を與へられました

色々御話し申し上げれば限りがありませんがほんの思い付いた事を御話し申しまた幾分でも皆様の御修養の助けになりますれば幸と思ひますといふ懇ろに口を結ばれた山岡中佐の如きは其の躬自身が尊き國家の至寶である曾ては難攻不落の旅順の要塞攻撃に彈丸雨飛の中を走軀せし勇將の人格を通じて乃木將軍の大遺訓を聴く何たる幸乎中佐は盲目たる老驥を挺して尙國事を憂ひつゝ、碎勵せらる吾等青年豈奮起せずして有るべけんや中佐は講演を終るや茶を一喫して直ちに辭し歸ら

戒沐浴し天神地祇に縋りつゝ命に代へて大君の御惱みを癒させ給へよと熱き祈の効もなく九五に在す龍体はあへなく天に陞らせ給ひ愁雲八紘を鎖して風傷み落日荒涼うたゞ暗慘たり此の時決せし將軍が心の奥の秘め事はいかなる人だにしまら弓彎けば歸らぬ武夫の心の裡を譬へなば嵐の前の櫻花

人生自古誰無死 留心丹心照汗青

去る程に御代大正と改まる世は諒闇の夕間暮愁雲濃く九重の大内山の常盤木にかゝるも憂しや秋の月露したゞらん許りにて風にゆら／＼遠近の路を照せる篝火も今し消へなむ哀の程調べは細く悲しくも亦嚴かに奏で行く此の時しも將軍はかねて我家の一室につき祀れる聖天子明治大帝御眞影の御前に威儀嚴然と瞑目し心に念じ申されけるは臣はこれ西南の戦役に軍旗を敵に奪はれし責は死すべき命をも期を失ひ思はずも春秋茲に積り來て頭に露を戴く身過ぎし旅順の激戦は雨と降り來る彈丸の下に果つべき命をも長らへ末頼もしき殿原を多く殺し皇恩に報ひまつ

れた高井團長新宿驛迄御送り申したり

八時十分村越進氏は令弟野村嘉一氏を同伴して吾等に薩摩琵琶の彈奏を提出し呉れんとて來訪さる感謝の至りである、野村氏は薩摩男兒にして目下慶應大學に修學中の青年學生である薩摩男兒から薩摩琵琶を聞くといふ事は何たる幸であらう野村氏は琵琶を彈奏される前に挨拶して曰ふ

薩摩琵琶の眞精神は所謂錦心流とは違つて娛樂でもなければ慰めでもない薩摩に於ては昔から此の薩摩琵琶を以て精神の修養志氣の鼓舞に用ゐたものである諸君は此の考を以て開みて貰ひたい

といふ希望を述べられて乃木將軍の一曲を上演され熱心にして聲に力あり乃木將軍の最後の狀を髣髴として思ふものが有つた

薩摩琵琶乃木將軍

至誠は秀る芙蓉峰軍人の中の軍人乎と世に講はれし其の人は陸軍大将乃木希典時しも明治四十五年六月中ばを過ぐる頃壽無窮と祈りてし大帝の重き御惱みと漏れ承はりし將軍は夙夜齊

らん折りだになく待てる折りしも大君の龍駕昇天拜し奉る

皇師百萬征強虜 野戰攻城作屍山

愧我何顏看父老 凱歌今日還幾人

あはれ此の機を逸しなば臣の死すべき處なきさあれ學びの窓の戸に畏れ御かしづき參らせし皇孫殿下の御光いとも貴き御將來拜しまゐらせたらむには兒等に別れし老の身が如何に嬉しきならむ 兎やせん角や波たてる心二つに身は一つ道がに狂き武夫も情には脆きものなるを 折しもあれや青山に轟きわたる號砲の殞の宮をいでもしたまふ相圖どころは白菊の香り床じき乃木の卿は

うつし世を神去りましゝ大君の

御跡したいて我は行くなり

悲しき辭世を名残とし肌寛げて體釣瓶水もたまらぬ一刀を打ち笑みつゝ抜き放ち腹一文字に掻き切つて神去りましゝ先帝に殉じたるころ雄々しけれ殉じたるころ雄々しけれ

これを終つて小憩の時薩摩健兒社の回顧に就て物

語られた健兒社が青年の修養鍛練に重きを置き長幼の序が正しく制裁の厳格な事など人物修養の最良法として範とすべきもの多く痛快にして有益なる物語りであつた。續いて城山と本能寺を演奏された大西郷翁が子弟の請願已み難く叛旗を翻して孤軍奮闘遂に岩崎谷の露と消ね果て、餘黨限りなき一曲と豪邁の信長が國南の野心中空に燕雀の爲に惱まされ哀れ本能寺の朝の煙と消へ失せて獅子心中の虫に倒れたる譏りを後世より受くる一曲とは誠に對照の大教訓であつた。

研ぎ得たる心許すな増境

思はぬ塵のかゝる世の中

我等は興味と教訓と両々豊富なる音楽を提供せられて恍然として濁世の外に遙するの感があつたシエーキスピア言へるあり「人として音楽の心なく又優美の調曲の爲に感動せられざるものは其の性必らず信義に背き詐計を逞しうするに適す」と一曲の絃聲よく人をして泣かしめ數節の歌謠もよく人の心をして激せしむるものは是れ音樂の力なり一同村越兄弟の御厚意を感謝して送別し午後十一

時就床した

十二月二十二日

月晴

起床七時洗面し遙かに宮城大廟を拜しまつる天晴れて強霜下り寒さひし〜と迫りて道の邊の溜水に薄氷の張るを見た朝餉八時昨日までは今頃はもう工事に取りかゝる時分であつた一同は見學となつて餘裕が出来た高井團長から見學の日定を指示された見學は艱勞である恰業である修養である一同支度の整ふや千駄ヶ谷より青山に向ふ千駄ヶ谷の公設市場の前を通ると仲々繁昌してゐた曾て某雜誌に掲載した詩人の賦を思ひ出さるゝを得なかつた

公設市場欄目其一

公設市場極流行	新橋神田最繁昌
米屋番頭纏洋服	茶舖式部舊瑤瓊
佃煮十錢載竹草	砂糖一斤列板棚
値段穴勝非安直	買手徐々鳴不平

其二

板張店舖亞鉛屋	米穀醬油看板正
隨分上等五島鮪	割合適口金華鯨

裏店山神我勝負

教員與様爭前後

賣手亦自有巧拙

漬物繁昌轉堪驚

青山外苑を拜観すべく工務所に至りしも所長不在の爲意を得ず直ちに青山墓地に至る

第一に乃木家の墓地を訪ふて禮拜した棚内入口より左側に乃木將軍の墓石がある高さ三尺程の天然石で陸軍大將乃木希典之墓と書いてある並んで夫人の墓石も大將の墓石と相似た天然石で乃木希典室靜子之墓と地味な書き振りである聞く所に依れば此の墓石は將軍が生前演習地で見つけたものを態々持つて來たもので夫人のを似寄つたものを見つける爲に骨を折つたのであるといふ大將の墓石の餘りに質素なのに無量の感があつた。將軍の二愛子勝典保典の墓石は右側にありて高さ五尺位の尺角大のものであつて亦兄弟相似である兄勝典君の碑には

陸軍歩兵中尉正五位勳六等功五級乃木勝典之墓

(表) 明治三十七年五月二十六日金洲城東南角

壁外ニ戦傷シ同二十七日閉家樓第一師團第三野戦病院ニ歿ス干時歩兵第一聯隊第九中隊長(側面右)

明治十二年八月二十八日生(左側面)弟保典君の墓石には

陸軍歩兵少尉正五位勳六等功五級乃木保典之墓

(表) 明治三十七年十一月三十日旅順要塞二〇三

高地ニ戦死出征當初歩兵第十五聯隊第十一中隊小隊長又第一師團衛兵長後に後備歩兵第一旅團副官(側面右) 明治十四年十二月二十六日生(側面左) 其の他に親戚一同で建立した石燈籠もある墓前には柳の枝と菊の花とが竹の筒にさして進せてあつた將軍が自刃の當時

さらぬだに悲しきものを一本の

菊の花散る 秋の夕暮

と謠ひし長谷川録堂氏の歌を思ひ浮べた

乃木將軍逝いて茲に八年幽明境を異にするも雖も英靈永へに國民の血を新たならしめつゝある沈黙にして冷たき墓石は今も尙參拜するものに言ひ知れぬ感化を興ふるに於て偉大なる説教者の雄辨に優りて大なる力がある

九時四十分乃木家墓地を辭して道を更へ山岡中佐の講演にて聞きし山座圓次郎之墓陸軍中將從二位

勳一等功三級伯爵山治元治之墓を訪ねて参拜した
松田正久男後藤藤象次郎伯の墓にも参詣し先帝陛下
の御寵遇深かりし右大臣正二位大久保公之墓にも
参拜して青山墓地を去つた

うれより赤坂なる乃木邸を參觀した
青山御所前を通り青山一丁目の停留場より電車通
りを南に進めば乃木坂といふ停留場がある乃木坂
停留場の前が乃木邸で門は石門であるか垣は眞竹
を以て廻らし第一に將軍の清礎たる心事が思ひ出
される門を入りて左に小舎があつて乃木會で發行
する繪葉書などが提げてあつて將軍の肖像始め思
出多きものを寫し風韻筆跡など教訓として亦將軍
の情懷を散慕せしむるものがあつた

うつし世を神去りまして大君の 臣希典上

みあとしたひて我は行くなり

出でましてかへります日のならしと聞く

今ふの御幸に逢ふぞ悲しき

希典妻静子上

駒どめでしはは我れを忘れけり

朝日に匂ふ花の下蔭

爾靈山險豈難攀 男子功名期克難
鐵血覆山々形改 萬人齊仰爾靈山 希典
久和しほこ千足の國の益良雄の

あらみ魂ころ劍なりけれ 全

峻嶒富嶽聳千秋 赫灼乾輝照八洲

休説臣々風物美 地靈人傑是神州 全

奉迎拜觀人如堵

千五百年の瑞穂の民草の

しげりに茂る御代を芽出度き

菊地氏古戰場

ろのかみのちしほの色もこぼれて

紅葉流るゝ太刀あらひかは

將校斥候

あさまだき武庫の河原はきりこめて

駒のひづめの音のみぞする

夜戦

千萬の火筒のひびきとらきて

やみ夜の空もしらみりめけり

參觀人は引きも切らずに見わて來る海軍の水兵も

見れば婦人連も來る

希典草

本邸は庭よりも一段低き處に建てられて表玄関は
二階の入り口になつてゐる玄関の右より表に廻し
て橋廊を架け一般の從覽者に二階各室の窓を開け
て室内を參觀するに便してある表の第一に見る室
は西洋式の應接室である向つて正面に旅順戦鬪の
圖を高く掲げ次の窓から見ると右手の壁に漢文で
書かれた一幅の大軸物を掲げ棚には將軍が那須野
ヶ原に在りし農裝の像を置いてあるうれに並んで

嘉永年間米國の水師提督が勝安房に贈りし圓彈を
更らに勝安房より將軍に贈られしものなりといふ
紀念の品が取り並べてある中央に丸いテーブルが
置いてあつて將軍の姿が思はれる其處から中の廊
下を隔てゝ奥に食堂があつて整然と取り片附けて
ある次の一室は日本室で疊が敷いてある將軍の寫
眞と旅順の模型が置いてある許りで有る襖を一重
隔てゝ次が將軍夫妻が御最期を遂げられた室で御
血痕は見ね靈氣自から人をして襟を正さしめる舉
世滔々として責任を無視し自己の利害に汲々とし
て節義に反するも責を他人に嫁せんとして偷安苟
且眞眞目を欠くの時忠誠嚴肅自から奉ずる事薄く

百難排し來りて信念愈々堅く辛酸苦楚の間に處し
て能く耐へ能く忍びたる敬天愛人の眞偉人が献身
的生涯を思ふ毎に感激奮勵自からを責めずんばあ
らず今茲に大正元年九月十三日諒闇の雲低くかり
し夕先帝陛下の靈輻御發引の號砲を合鬪に壯烈な
る御最期を遂げ御殉死なされし悽愴たる當年の光
景を思はず眼前に勞瘁して流涕の襟に満つるを禁
ずる能はざるものがあつた

うれより東に廻りて中の廊下を隔てゝ静子夫人の
居室がある誰人も第一に目にするは吉田松蔭の士
規七則の額である士規七則を己が居室に掲げて行
住座臥士道を修めし夫人にして從容として壯烈な
る御最期を遂ぐる事が出來たのである思はず崇高
の感の身に迫るを覺れた 額面に白く

士規七則

披籍冊子嘉言如林躍躍迫人顧人不讀即讀而行

之 則雖千萬世不可得盡 噫復何言雖然有所

知矣 不能不言人之至情也 古人言諸古我言

諸今亦詎傷焉 作士規七則

一凡生爲人宜知人所以異於禽獸蓋人有之倫而君

子父子爲最大人故之所以爲人忠孝爲本
一凡生

皇國宜知吾所以尊於宇內蓋

皇朝萬葉一統邦國士大夫世襲祿位人君養民以
續祖業 臣民忠君以繼父志君臣一体忠孝一致
唯吾國爲然

一志道莫大於義義因勇行勇因義長

一士賢以質實不欺爲要以巧詐文過爲恥光明正大
皆由是出

一人不通古今不師聖賢則鄙夫耳讀書友君子事

一成德達材師恩友益居多焉故君子慎交遊

一死而後已四字言簡而義廣堅忍果決確乎不可

枝者舍是無術也

右士規七則約爲三端日立志以爲萬事五源撰
交以輔仁義之行讀書以稽聖賢之訓士苟有得
於此亦可以爲成人矣

二十一回猛士手錄

塵敷の右の隅の方に整然と座布団が十枚重ねてあ
るこれは夫人が自刃する前に置かれた其の儘であ
るといふりの周到にして綿密なる注意には何人も

敬仰するのみである橋廊を下りて階下を覗れば女

中部屋である隣つて物置がある中廊下の南は日本

室の食堂で階下表玄関に隣接してある裏に廻つて

見れば洗面所があつて使ひ古しの竹箒などもあつ

た東の庭には小祠が祭つてある明治三十五年頃伊

太利に洋行したる山口縣人農學博士豊永眞理氏よ

り明治三十七八年戦役前に大將に贈られしものに

して將軍の御愛樹であつたといふ月桂樹がある垣

を隔て、東に乃木神社の造營地があつて境内總て

千五百坪であるといふ

表門の左に厩がある間口七間奥行三間程の煉瓦造

りの堂々たるもので居宅よりも遙かに構造がよい

ので有る身を持つる事飽くまで儉にして薄く職の

爲に用ゆる軍馬の爲には完全なる注意を怠らない

これが誠の武人の道で將軍に於て始めてこれを見

る吾等が農村に於て居宅に贅をするが如きは末葉

の事である

千疊の塵敷持つとも如何にせむ

唯寢所は一疊で済む
先づ農の本源たる堆肥舎の完全を計るべきである

將軍の馬舎を參觀してこんな所感もあつた乃木郎
は一木一草悉く將軍の紀念の遺物であつて將軍の
高潔なる生涯を語る國民教育の活教材である
十一時頃乃木郎を出で、電車にて九段に至る有名
なる青銅の大鳥居をくぐりて靖國神社に參詣して
忠勇なりし同胞の英靈を弔らひ直ちに遊就館に入
りて參觀した

第一室には砲彈を陳列して古今各種の型を見て武
器の變遷を思せる第二室に進めば函館戦争台湾戦
争の油繪が目を眩く第三室の主なるものは名古屋
城と履路城との模型である第四室には田原坂の戦
争の油繪が最もよく目に入る第五室は明治維新前
後の銃を數百挺陳列してある第六室には世界各国
の銃があり上野戦争の繪で見物である第七室では
元寇の油繪が主なるもの八室九室昔の刀劍鎗薙刀
などがある第十室には 明治大帝の御遺物を多く
陳列してある吾等皆脱帽して拜観する軍刀軍服國
寶名刀御馬などありてかゝる尊貴の御寶物を一般
國民の從覽に供せられ給ふ獻慮仰ぐだに畏こし
次の第十一室は乃木室にして乃木家の家寶たりし

鎧兜名刀軍刀などより將軍夫妻が自刃の當時御着

用せられし喪服携帶品に至るまで陳列されて了れ

を見る時肅然として涙を催ふさせる疊一疊大の將

軍夫妻の寫眞の前に至れば知らず自から頭の垂れ

るを覺へた勳章勳記勳語其の外書翰日露の役に戦

没せし將士への另辭など斷簡零墨まで悉く尊き紀

念の品である 昨夜の夢と題した一詩があつた

飛雪侵襲馬欲逸 斷鐵佩刀鳴有聲

留倣俗務君止誘 百萬青眼手中物

不關規則

これは將軍が巻紙の端に即吟を記されしものと思

はれた將軍が自刃の時遺言の條々は將軍の信感の

結晶なれば讀む人誰か將軍の至誠と廉潔に泣かさ

るものあらんこれを左に寫さむ

遺言條々

第一 自分此度御跡ヲ追ヒ奉リ自殺候恐入候儀

其罪ハ不輕存候然ル處明治十年ノ役ニ於テ軍旗

ヲ失ヒ其ノ後死處得度心掛候モ其ノ機ヲ得ズ皇

恩ノ厚キニ浴シ今日迄過分ノ御優遇ヲ蒙リ追々
老衰最早御役ニ立候時モ無餘日候折柄此ノ度ノ

御大喪何共恐入候次第茲ニ覺悟相定メ候事ニ候
第二 兩典戰死ノ後ハ先輩諸氏親友諸彦ヨリモ毎

々懇諭有之候得共養子ノ弊害ハ古來ノ議論有候
特ニ華族ノ御優遇ヲ蒙リ居實子ナラバ致方モ無
之候得共却ツテ汚名ヲ殘ス様ノ憂無之爲メ天理
ニ背キメル事ハ致ス間敷事ニ候

祖先ノ墳墓ノ守護ハ血縁ノ有之限リハ其者共ノ
氣ヲ付ケ可申事ニ候

第三 資産分與ノ儀ハ別紙ノ通り相認メ置候其ノ
他ハ靜子ヨリ可仕候

第四 遺物分配ノ儀ハ自分軍職上ノ副官タリシ諸
氏ヘハ時計メートル眼鏡馬具刀劍等軍人用品ノ
内ニテ時計ラヒノ儀塚田大佐ニ御依頼申置候大

佐ハ前後兩度ノ戰役ニモ盡力不少靜子承知ノ次
第御相談可被致候其ノ他ハ皆々様相談ニ任セ申
候

第五 御下賜品(各宮殿下ヨリノ分モ)御紋付ノ諸
品ハ悉ク皆取り纏メ學習院へ寄附可致此ノ儀ハ
松井猪谷兩氏ヘモ御願仕候

第六 書籍類ハ學習院へ採用相成候分ハ可成寄附

大正元年九月十二日夜

希典 寫

湯池定基殿
大館集作殿
玉木正之殿
靜子ごの

嗚呼神格の八乃木大將嘗て俗慾の爲に魅せられず
實行を以て其の生涯を修始したる英魂は遠く去つ
て其の行く所を知らずと雖も將軍は決して地上を
去るものにあらず彼は尙生きて敬虔眞實なる人の
胸中に宿つてゐる俄に渴く如く眞理を愛するもの
ゝ耳底には其の清嘖々として聞へ眼中には其の
高容を髣髴として見らるゝのである

十二室に進めば乃木將軍の古衣などがある十三十
四十五室いづれも古代の兵器である十六室は我が
航空界最初の犠牲者たる木村徳田澤田三中尉の紀
念の品が陳列してある第十七室にはロシアの軍艦
旗や船尾飾などの捕獲品や魚形水雷が目新らしく
見られる第十八室は徳川時代末期の兵器軍服大阪
冬陣の大繪がある第十九室二十室には鎗薙刀の類

其ノ餘ハ長府圖書館へ同斷不用ノ分ハ兎モ角モ
ニ候

第七 父君祖父曾祖父君ノ遺書類ハ乃木家ノ歴史
トモ云フベキモノナル故嚴ニ取り纏メ眞ニ不用
ノ分ヲ除キ佐々木侯爵家又ハ佐々木神社へ永久
無限ニ御預ケ申度候

第八 遊就館へ出品ハ其ノ儘寄附致シ可申乃木家
ノ紀念ニハ保存無此上ノ良法ニ候

第九 靜子儀追々老境ニ入り石林ハ不便ノ地病氣
等節心細クトノ儀尤モ存候右ハ集作ニ譲リ中野
ノ家ニ住居可然同意候中野ノ地所家屋ハ靜子其
ノ時ノ考ニ任セ候

第十 此ノ方屍骸ノ儀者石黒男爵へ相願置候間可
然醫學校へ寄附可致墓下ニハ毛髮爪齒(義齒共)
ヲ入レテ充分ニ候(靜子承知)

○恩賜ヲ願ツト書キタル金時計ハ玉木正之ニ遺
シ候筈ナリ軍服以外ノ服裝ニテ持ツヲ禁ジ度候
右ノ外細事ハ靜子へ申付候間御相談被下度候伯爵
乃木家ハ靜子生存中ハ名義有之候得共吳々モ斷絶
ノ目的ヲ達ス候儀大切ナリ右遺言如此候也

が多くある二十一室には朝鮮の兵器を集め二十二
室二十三室明治二十七八年の戦利品を陳列し大同
江架橋の圖を掲げ歎聲雷動海涌春育の優美な文字
が支那を思はしめる二十四室は清國事變の紀念品
でチャン／＼妨主を思ひ起させる赤い戎衣がある
徳被梯航徳澤彌深の二大額も支那式である第二十
五室も明治二十七八年戦役の紀念品で大砲もある
三軍扶續克壯其猷などの大額は支那國民の誇大妄
想を表はしてゐる第二十六室は明治三十七八年戦
役の紀念品で勇敢なりし將士の寫眞や銃が多い二
十七室は同役第三軍の紀念室で戦に傷きて義手義
足をなせる兵士の寫眞多く有つて悲痛悽愴の感を
起さしめる第二十八室は明治三十七八年戦役に於
ける旅順の戦利品で大砲小銃軍刀等が澤山ある一
劍答恩と故寺内正毅伯の書類がある二十九室は同
じく旅順の戦利品である

第三十一室には青島攻圍戦に用ひたるモ式第三號
の飛行機がある此の飛行機の重要事項は次の通り
で該機の大要が知れる

重要事項

乗者數 二人 九〇吉米
 速度毎時 二二里
 重量油及 七八〇瓦 二〇〇
 操縦者共 四時間
 飛行時間 一五、五〇米 五一尺
 全 幅 一一、〇〇米 四〇尺
 全 長 三、六六米 十二尺
 發動機類 七〇馬力
 全回轉數 一分間 一八〇〇回
 螺旋機シロビエール全回轉數 九〇〇回
 翼には彈痕が數ヶ所ある
 第三十二室には中古鎌倉足利南北朝時代の兵器軍服軍事に關する品が澤山あつて歴を偲ばせる三十三室は太古の兵器で藤原時代より源氏平家の遺物奈良朝時代の風俗人形等があつて面白い第三十二室には平家の公達の都落ちの圖がある第三十五室は原史時代の石器蝦夷の武器などがある昔垂仁天皇の御時貴人死すれば從者之れに殉死するの習慣あり天皇之れを隣み給ひて殉死を禁じ後野見宿禰殖主にて入馬等の形を作つて墓の周圍に立て、殉

死に代へたといふ壇輪が有つて古い昔を見る様な氣がする第三十六室は足利初期の兵器同末期の兵器第三十八室には熊本城に於て加藤清正公の用ひしといふ簀戸がある第三十九室では鳥原一攝の模様が目につく四十室には日露の役に於ける第一軍の戦利品がある四十一室は最も新しく青島攻圍戰の戦利品を集め青島要塞の模型がある第四十二室は日露の役第二軍の戦利品でロシヤの釣鐘などがある第四十三室には歐羅巴や印度の兵器和蘭ウエルヘルム二世及三世の肖像等がある
 如此遊就館は古今東西の軍事に關するあらゆる紀念参考品を集めてあるのであるからこれを仔細に研究し歴史に照して觀るならば趣味津々として盡きざるものが有る時己に正午を過ぎければ遊就館を出で、大村益次郎の銅像に維新の昔を偲びつゝ九段坂を下りて思ひ／＼に晝餐をやつた。うれし／＼電車に投じて三越呉服店へと參觀に急いだ東京に居ては殊更らに時間が欲しい様な氣がする電車は満員追かに帝都は歳暮の事とて世相なんどなく社はしげに見ゆ日本橋駿河町なる三越呉服店に至

れば入口の混雑々杏田舎芝居の木戸口も及ばざる有様で有る漸くにして店内に入れども觀客多くして歩行自由ならず況んや見物をや此の東洋第一のデパートメントストア商品は舶來内地製悉く天下の粹を集め店員亦美女多し最も我等が目映るものは顧客の紳士貴婦人が綾羅錦繡を纏ひ金指環に金齒に光らしてゐる事で有る今や二十世紀の文明は殆んど其の極に達せんとして文化の利器を濫用して肉慾の快樂に耽り黄金貴く酒池肉林の豪快を爭ふ者功利に趨りて華奢の狂態人をして羅馬末代の全盛を思はしめる吾等は茲に所謂「裝飾されたる人類」を目撃して愛國の真情愈々深く前田監察官の講演にて力説されし大意を想起した
 見すや指環一個にして三百圓五百圓千圓なるを帶一筋にして五百圓千圓は珍じからず新流行として大島紬など大概一匹物にて百圓は下等也百貳拾圓百五拾圓といふ羽の生ねた如くに賣れ行く状を迎春の準備の羽子板も五圓位のものほ愧しき様な譯にて拾圓貳拾圓五拾圓百圓といふもので有つた
 米國の森林生活の著者トローが「世人は動もすれ

ば必要の爲に餓死せずして却つて贅澤の爲めに餓死するが如き苦境に陥つてゐる」と言つてゐるが文明の人類は觀喜に酔ひたい爲に不自然なる生活を營みたい爲めに生活に要す以上の努力を費して尙且つ生活に窮すといふ事は全く虚榮と華美に心酔する結果ではあるまいか
 聞く所に依れば東都の上流家庭に於ては品質の良否價格の如何などは問はず三越物でなければ他へ對して幅が利かないといふ様な譯で女學生に至るまでううした虚榮心に憧れてゐるものが有るといふ誠に思はざるも甚しきもので有る五階に亘つて各部門を分つて商品が陳列して有る中に寫眞屋も有れば食堂も有る休憩室も有る音楽を奏して顧客を慰むるものも有る五階には温室まで有つて四季花を養ふて有る昇口にはエレベーターが有つて何人でも自由に乗せる事にして有る我等は物産陳列館を見る様なもので有るが此の如き大商館が衆多の虚榮心を唆り悪魔製造所では有るまいかと思つた余等は倉皇として店内を一巡して三越呉服店を出た三越呉服店前には救世軍の女士官が慈善鍋

を下げて盛んに献金を願つてゐたのを見たこれからちり／＼になつて各方面に悠遊し藤倉へは夜の十時頃から二三人宛段々歸つて來た
見學の第一日は短く早かつた

十二月二十三日 火晴

午前六時起床霜庭に深く下りて寒林に叫ぶ鳥の聲物の響空にこだますかど覺わたり洗面後宮城を拜し大廟を拜しまつりて朝餉早々支度を整へて約定の如く七時五十五分新宿御苑の裏門前に詰めかけ静岡縣駿東郡青年團七十名に會した静岡青年團は團長樺野源一氏に引率され己に森技手八里氏も出張されてゐた直ちに列を整へて橋を渡つて門に入り左に折れて大銀杏の下を通るうれから大廣場があつて芝生が美しくい新宿御苑は頗る野趣に富みて數百年を経た樺の大樹が聳へて横栗櫓なども一しはの風致を添へてゐる 天は愈々晴れて一塵の曇りも見えない静けさである うちから舊内藤子爵の別邸たりし困雅な茶亭の傍を通つて正門の廣場に出る茲に到れば芝生の廣場遙かに遠く見わたる自然の雜木林が双方から連り合つて西方に引いて

きまうじょうちどり ばん ござぎ等いる／＼奇禽類が多くあつて目新らしい見物であつた動物園を過ぎると龍影といふ軒額の懸つた雅かな建築がある次いで少し小高い處に翔天亭といふのがあつて二つ共茶亭の様に恐察された動物園を出ると亦廣闊な芝生に出て事務所から植物園を拜観する白亜硝子張りの温室が幾棟も並んでゐる蘭類が最も多く室内は春の様である樹葉緑にレモンの實つてゐるのもあつた草花の紅いのも有る森技手は蘭類を説明して「多く洋種でシヘクベリユーム デン ドビーム カトリヤは最も美しくいオンシデーム などである」と言はれた促成栽培の温床もあつて狀ならぬ野菜の培はれつゝあるのも面白い
御苑の面積十三萬坪にして泉池林木能く天然の景を模して幽遠の境別天地である吾等今日微賤の身を以て御苑の拜観を許されて然かも係官の懇ろなる案内と説明とを得たるは誠に恐懼に堪へぬ唯皇國彌榮を祈るのであつた御苑の拜観を終つて元來し門を辭じて出たうれより青山外苑に行く工務所に至りて小憩し八里氏より青山外苑の大畧の話を

ゐる誠に雄大の氣に打たれる森技手は歎へて曰ふ「これはち英國式のナチュラーガーデンなり」と廣場を横断して少しく下ると池があつて岸邊の樹木草石がよく調和して言ふべからざる風趣がある己に薄氷のはつた所もあるが水禽の餌をあさつてゐるものも面白い殊に心地よきは唐栢の常緑樹が地から枝を張つて難然と植込まれてゐるのである更に少しく進むと觀梅御苑である四河や共同椅子があつて陽春四月花咲く頃の幽艶愛すべく盛儀の畏ここさを思ふた

再びうれより芝生の廣場に出て別苑なる動物園に案内されて拜観した休憩所の邊を通つて池を渡る此處にも鷺鳥スワン丹頂鶴などが遊んでゐる 動物園に行くに第一に明治三十八年八月廿七日陸軍大將野津道貫閣下の獻上した「せじろわし」がある次に同年八月樺太にて捕獲した「せじろわし」を「海軍大將伊藤祐亨閣下の獻上したものがあつたうれからうれがんす かも たんちようづる けり たござり あめりかひがも タスキ セクロコイザ キ コサヤ さんじょううを ひくひな むん

隠れた外苑の面積十五萬一千六百六十三坪五合といふ廣大の面積であるが工事は何程も出來てゐない直ちに恩賜憲法紀念館を拜観した抑も憲法紀念館は元赤坂御所内の別殿にして明治十四年三月六日取掛られて明治十四年十二月に竣工し憲法案討議の會議室に宛てられしものにして越つて明治四十年一月十七日赤坂御所御政策の砌先帝陛下故伊藤博文公の功績を嘉せられ公に御下賜遊ばされしを令嗣博邦公大正六年六月十日明治大帝の御聖徳を永く紀念し奉るべく神宮造營局に御寄附に相成りうれを其の儘移したる建築物にして建坪二百四十二坪の日本式の建築也建築の當時參萬壹千貳百四圓八拾六錢八厘の經費を要せしといふ
工務所から元練兵場を横断して行くに憲法紀念館の處は林苑が出來て見張番がある門を這入つて少し行くに憲法紀念館で夢高く白壁蕭酒たる殿堂である玄關から案内されて廊下を通り便所から會議室を拜観した會議室は鶴澤探眞の筆に成る鳳凰と牡丹の總畫で四壁の襖が彩られてゐるが一体に質素也憲法紀念館を拜観し終つて出づれば青山の原廣

く西方に皚々たる富嶽千秋の雪を仰ぐ陸軍大學の前を通つて乃木邸に至る時に十時二十分恰も東宮殿下新宿御苑へ御成り遊ばる御途次を拜するを得たり殿下には御元氣いと勝れて遊ばさる

これ迄は勝れし人と思ひしに

人と生れし神にぞありける

日露の役後將軍が

語らしと思ふ心もさやかなる

月には得にぞかくさゝりけり

當時坊間に

一人息子と泣いては濟まぬ

二人無くした方もある

十時五十分乃木邸を去つて内務省に向ふ市内を歩いて霞ヶ關に出で外國大使館を瞥見しつゝ海軍省司法省の前を通つて櫻田門を入り二重橋前に至りて宮城を拜し奉る坂下門前を通り和田倉門を出で大手町なる内務省に至る裏門より入りて直ちに會議室に案内されて晝餐を認む 折よくも樞密顧問官一木喜徳郎閣下の訓話を拜聽する事が出来た塚本神社局長の紹介で一木閣下は登壇して次の様な

方のある話をされた

諸君は此の度明治神宮の御造營工事に奉仕の爲に上京して首尾よく工事を完成して近く歸郷する事の事であるが諸君が奉仕は篤志の事であり亦光榮である諸君は先帝陛下が廣く國民を愛撫された御恩德に報ゆる爲に神宮御造營に奉仕された事は永く紀念すべき事である諸君は奉仕の中に其の心に各々抱いて居た考を永く續けたならば諸君の爲許りでなく國家の爲にも大いに喜ばしい事である

私は本日御大典の紀念として内務省から天皇陛下に御太刀を奉獻する事になつて居る其の太刀が出来たので一覽する爲に來たのであるが幸ひ諸君に御目にかゝる事が出来た私は奉獻の太刀を利ぎ上げる所を見て感じた事が有る 近頃或る雜誌で西洋の學者が次の様な事を言つてゐるのを見た 一体世の中が進むにつれて機械の進歩が變つて來た仕事を熱心にやるといふ職人氣質がなくなつた仕事をよく仕上げるといふ觀念即自分の氣に入る様にする爲めに利害を

考へないで仕事に忠實に満足する迄やるといふ高尚なる職人氣質が無くなつた物の出来上り如何といふ事を考へずして今の人は算盤を先きにして居るがこれは非常に慨はしい事であるといふ事が書いてあつたが我が國に於てもういふ傾向がある

昔から色々の事實があるが其の一例を擧げると神刀鍛冶に小林伊勢守國照といふ人があつて弟子に相模守國助といふのが有つて永く奉公をしたがどうしても秘傳が解らない國助は色々の方策を廻らした結果國照に一人の娘が有る其の娘を娶つたならば愛に引かされて秘傳を教へてくれはしないかと思つて終に結婚を申し込んだすると結婚は快諾されて暫らく睦しく暮らしてゐたけれども國照は秘傳は教へて呉れない

國助は詮方盡きて妻君に娶つた理由を話して秘傳を聞きたいがどうしたらよいかといふ相談をしたすると妻君が言ふには父親が鍛へをしてゐる時私が急病だといふ沙汰をしますから其の時湯加減を見たらよいでせうと言ふたが出来て工

場へ行つて働らいてゐたすると父親の處へ娘の病氣を急報して來た國助は今日こそ親方の去つた後で湯の中へ手を入れて其の加減が見られると待つてゐると親爺は湯の中へ手桶の水をさぶんど入れてかけ出した國助は後に殘つて偵かに名人は偉い自分の急事にも仕事に對する用意の周到なる事熱心なる事に驚いたうして亦自分が濟まない事をした嘘をついて申譯がないと後を追ふて行つて打ち明けて詫ひたすると國照も弟子の如何にも仕事に對して忠實と熱心なのに感じて終に秘傳を辭したこうした職人氣質は貴い精神である今日の人はあまり算盤の計算許りしてゐて自分の仕事に對する忠實熱心といふ事が乏しい利益計算を除外するといふ事は總ての仕事に必要なのである

只今言ふた様な職人氣質の衰へて行くといふ傾向は甚だ悲しむべき事であつて目前の算盤計算といふ事は産業の上にも大なる不幸である 諸君が奉仕には唯報い様といふ熱心で働かれたと思ふりの諸君の精神が貴いのである

諸君は郷里に於て今日の精神を以て働かれたならば國家の爲にも大なる幸である

私は今日幸諸君の會合に來合はして内務省から大典紀念に奉獻する太刀が出來上つたのを見て昔の名工が名利を超越して精神的に生きたといふ昔讀んだ事を思ひ出して申上げた次第である
と現代の人心が極端な物質主義に墮して何事にも先づ利害を打算して掛るのは誠に慨はしい現象であるといふ痛烈なる訓話であつた次いで塚本神社局長は

諸君は今回明治神宮の御造營工事を助て呉れて有り難い仕事が非常によく出來て工事上大大な便宜を得た諸君は眞剣に働かれたと思ふ奉仕に働がれた此の心持を以て家の爲村の爲に充分の努力を望む日本人はごうも働く時と遊ぶ時の區別がよくつかない様な人が少なくないが諸君は働く時にはよく働き遊ぶ時にはよく遊ぶといふよい習慣を作つて貰ひたい

明治神宮の工事は明年の十一月には大畧仕上げて祭典がある筈であるから諸君は參列されること

よいと思ふ

私は一言御苦勞を申し上げます

と吾等の勞を稿らひ亦田澤書記官は過日の訓示を忘れてはならぬといはれ併せて訣別の辭とされた午後一時五分茶を喫して内務省を辭した
表門を出で、外濠に添ひ左に中央停車場を始め保險會社帝國劇場警視廳など石造煉瓦造の巍々たる大建築を見つゝ、日比谷公園の中を縫ふて内幸町なる貴族院に至り裏の通用門から入りて庭に小憩し院内を案内された茲も通用口と思はれ少く這入ると食堂であるより二階に上り談話室豫算會議室を觀る中央議政の樞府丈けに凡て規模の偉大と設備の完全とに驚く徳川家達公を始め黒田侯蜂須賀茂昭侯故東久世伯爵故黒田清隆第一回衆議院議長たりし伊藤博文公細川侯西園寺公望侯近衛公等の肖像掲げらる亦明治二十三年二月十一日憲法發布之光景を撮せるもの第一回の開院式の光景を撮せるものなどありて一段の色彩を添へてゐる
廊下傳ひに行けば委員室あり讀書室あり内談室ありて議員に至る議院は前方中央に玉座ありて菊花

の御紋章仰ぐだに畏こい玉座の前に議長席あり左に政府委員席ありて右に大臣席書記官長席があり

新聞記者席もある開院式には中央より左に衆議員議員參列し右に貴族院議院參列して貴族院議員は公侯伯子男勅選多額納稅者といふ順序に席を置くのだといふ一般の傍聴席は二階で兩側に設けられ高貴の傍聴席は玉座の正面に設けられてある少く後戻りして左に折れて扣室がある順次式部官各大臣、總理大臣、便殿、皇族室、政府委員海軍省司法省鐵道院同農商務省遞信省等ありて廊下を隔て、衆議院なるも衆議院の方は己に議會召集日の切迫せるを以て掃除をした爲參觀を許されず

階下に入りて門を出た時二時三十分折よくも今日芽出度き御婚儀を執り行せられた伏見宮博義王殿下同妃朝子殿下御參内の御途次とて院前に堵列して奉迎すれば兩殿下には御馬車に御同乘近衛儀仗兵一ヶ小隊の警營の下に通御遊はされた芽出度限りなり

うれから京橋南鍋町なる時事新報社を訪ふた時事新報社にては吾等を歓迎して直ちに應接室に招じ

鷹野記者から新聞製作の話をして呉れた大要を記すと次の通りである

諸君が明治神宮の御造營に奉仕されて己に豫定の活動を終り東京市内各地を見學し茲に亦本社を訪問して下されたといふ事は非常に喜ばしい次第であるうれで私は諸君に新聞社を見て戴く前に新聞の製作に就て一通り御話し申上げたいと思ふ

抑々新聞といふ事業は最も時間を尊重する事業である「時は金なり」の格言は新聞事業に最も適切である
新聞社では毎日各面の受持ちの記者が政治經濟社會とあらゆる出來事を全國各地からの通信特派員から電信電話で來るものを記事に作る夕刊は毎午後二時三十分に出すので記事が出來るに従つて文選といふ事をやる我が社には七百萬本の活字があつてルビといふのは振り假名の付いてゐるものでベタといふのは振假名の付いてゐないのである活字は普通に新聞の表に使つてゐるのを五號と云つて四號といふのは少し大きく

三號二號と段々大きくて一號は一番大きいのである亦六號といふのは少し小さいので七號といふのが最も小さいのである

記事が出来た文選といふて原稿を見乍ら活字を拾ふうれを植字工が整理するうして刷つて直ぐに校正部に出す校正部は原稿と對照して誤字脱字のない様に檢べるうして二度校正刷をする二度校正して間違ひのない様になつたものを編輯の順序に従つて組み合せるこれを大組といふ寫真なども二時間も掛ればちやんと製版する事が出来るこゝういふ風で絶対に時間を正確にしなければならぬ時間を利用して勤勉しなければ三分か五分かの争ひで今日載せる記事が明日に廻るといふ様な事になるうなると先に行つて非常な差が出来る事になるから今日の様に忙しい世の中は殊更らに新聞事業は大切な仕事になつてゐますうれでこの大組といふ事迄は二階でやつて昇降機で工場へ下としますと活字をじつかりしめて雁皮紙をぬらして載せて其の上に地がみといつて綿の様なものをつけるうれを乾燥台に

入れて上からは壓搾して力を加へ下からは幾條となくボウ／＼瓦斯を焚いて熱を與へて五分間入れて置く紙型といふものが出来る紙型を手にして一同に見せ乍ら紙型の面を見ると其の儘よく見ゆるうれを鑄型に入れて主要部分は鉛と錫の合金を一方に溶かして置いてうれをつぎ込むと圓盤になつたものが出来る更らに圓盤の不要の部分を削つてうれを輪轉機にかけるのである

我が社の機械は米國製の最新の機械で一時間に九萬六千枚印刷が出来ます十二頁のものが一時間に三萬二千部出来る譯になります
うれから編輯の順序は夕刊が第一で午後の五時になる第一版を出します六時が第二版七時が三版八時が四版で群馬版は四版であります十一時が五版で六版は午前二時になりますうの上我が社は七つの地方版を出しますから東京に於てもうれ／＼静岡版の欲しい人には静岡版群馬版の欲しいといふ人には群馬版を配達して上げます

か様に忙しい仕事でありまして新聞事業程複雑な事業は他にないのであります

我が社は今から三十八年前福澤先生の創業にかゝるものでありまして社會を善辱誘接して帝國の爲めに盡したいと思つて居ます

諸君はこれで大概新聞製作の順序ともいふものがた解りになつたと思ひますが更らに工場に就て見られましたならばよく御解りなる事と思ひますから是れから工場を御案内致します

と丁寧なる説明を拜聴して後工場を案内され圓盤整頓から鑄型製作紙型製作等を見學し更らに完成輪轉機の活動を參觀して新聞が折り疊まれて印刷される實況に驚異し活きた知識を豊富に與へられし事を感謝し乍ら工場を出た後社前に整列して紀念の撮影をなし次いで尾張町なる台湾ウーロン喫茶店まで招せられて茶菓の饗應を享け其の上世界改造地圖と新聞を讀むべき心得の小冊子を各自に惠授せられたるれより再び時事新報社に歸り本日吾等の爲めに勞を取られし技手各位及新聞社の御厚意を謝し一行は電車にて山谷の宿舍へ歸つた

宿舍に歸りて夕餉の後うれ／＼一日の見學を談合し新らしき知識と大なる感激とを受けて無限の觀喜と満悦の感謝とを以て快眠の床に就いた

十二月二十四日 水 晴

今日は自由行動の日とて黎明き出で、成田山に參詣するもの有り高雄山に參詣するものあり
うれ／＼東京を見物して有益なる一日を送つた

午後二時頃川場村宮田會吉氏態々山谷宿舍を徘徊された午后四時三十分頃東尋常高等小學校長小尾常菊氏同村屋野正太郎氏亦來訪された

十二月二十五日 木 朝雨後晴

今日は愈々歸郷の日となつた起床四時
身を清め心を聖めて太廟宮城を遙拜し朝餉もうこ／＼に支度をして懐しき藤倉電線株式會社俱樂部を後にした十日假泊も何となく惜別の名残りがあつた一同は高井團長に引率され小野副團長は後事整頓の爲に逗留された天は吾等が足跡を洗ふ爲にか朝來豪雨を下して降りも止まず新宿驛まで篠つ／＼雨に濡れて行つた午前五時五分漸くにして山手線の電車に乗り込む上京の日と同じく池袋にて乗

換へ更らに赤羽根驛にて乗り替へて汽車に投す與野驛あたりにて夜は全く明けて晝の世界となりて雨は晴れたり

諸生多くは十日間の奉仕と三日間の見學に依る満悦と疲労とに午睡を貪りつゝもう高崎かといふ様な譯なりけり高崎よりは軌道車に乗せられて九時五十分前橋に着く雨霽れて碧落一浩光明の世界となる榛名赤城の雪山白く輝きて高く高く吾等を迎ふるが如し市内電車にて岩神停留場に至る時十時十五分澁川行の電車來ざる爲一時間許り待ちて各個に晝餐を取る十一時十六分電車來たりしも暮の事とて乗客滿員混雑雜沓事の外なりき

澁川に着くや沼田行の電車待つ直ちに轉乘した澁川を出づ二時四十五分沼田に着く島田生方野上瀧澤の各位態々停車場まで出迎へらる一同は其の儘郡役所に集合し人員の點呼を行ふや三名ばかり遅刻した者があつた高井團長は我が青年の勞を稿はれ

諸君が十日間の奉仕に於て日頃鍛練修養された力が充分に發揮された茲に豫定の行動を遂なく終へ

諸君は十日間の意義ある奉仕をされ永く記念すべき利根ヶ丘を完成し身禮羊なく歸郷された事は誠に諸君の前途に對し亦事業に對して非常に目出度い事である

諸君は奉仕中に於て得たる精神を以て實業に充分奮勵されたい亦神宮の模様を郷黨の同志に傳へて貰ひたいとうして奉公の一端を頌つて貰ひたい諸君は利根郡の青年の中堅となつて將來充分なる活動をして貰ひたい一言以て訓示とする 次いで小森署長の訓示があつた

諸君は名譽ある奉仕をされて然かも利根ヶ丘の名を永く記念する仕事をされたと云ふ事は非常なる光榮である

十日間の働きは随分困難の事であつたと思ふ然し名譽である諸君は精神的に廣く磨かれた又高い思想を得られたのである諸君の將來は非常に責任がある他人から後指をさされる様な事があつてはならない奉仕をした人の缺點は更らに大きい悪い感化を與へるものである 諸君は自重に自重を加へて周圍の事情を考へ誘

て歸つた事は互に歎はしい事である諸君の奉仕は永世萬古に残る利根ヶ丘は利根の山河と關東平野を隔て、明治神宮の神域に對峙してゐるので有る

抑も、現代に於て最も貴い事は無報酬の勤勞である乃木大將の偉かつた事は罪を己に負ふて徳を人に譲ると云ふ事にあつた彼の桂公爵が手腕のあつた割合に衆人の感呪咀を買ひしは名利權をあまりに逞しうしたからである

吾等が今回圖らずも利根ヶ丘なる名譽の痕跡を残して來たのも最初より求めずして只々一意に働いたからである諸君は村へ歸つて郷黨の青年若しくは補習學校に於て奉仕中の感想や明治神宮に關する實感を話して貰ひたい

と力と愛の溢れた御言葉を下された暫くして散會の式を舉げた

聯合青年會長野中富三郎氏を始め小森警察署長藤井實業學校長島田課長生方野上瀧澤書記列席され先づ團長より奉仕の報告をされると次いで野中郡長から訓示があつた

感に遇ふて信を曲げる様ではならぬ由來人間程誘はれ易いものはない況して青年時代に於てたやである諸君は折角自重して村の爲亦青年の爲に盡して貰ひたい

一言老婆心を申述べて置く
十日間の勤勞に對し厚く感謝します

次に藤井校長の訓示があつた
連日の御苦勞を感謝いたします

諸君は郡青年の代表者に選ばれて奉仕したと云ふ事は非常なる名譽であります 時事新報は諸君が上京以來の様子を毎日掲載しましたし亦上毛新聞には高井氏の通信が出て居り亦私の莫逆の友である 林苑課の本郷技手からも度々通信が有りましたから諸君の行動について比較的詳細に知れました私は感謝と共に奉仕については特別縁故を以てゐる静岡の青年團よりも我が利根の青年が光榮を以て居ると思ふのであります 只今も高井さんから承りますと千古に残る利根ヶ丘の名譽を與へられたと云ふ事は歎びの程度が高いのであります

うれ故何にか諸君の歸郷を待たしたのであります
學校に於ては男子部には新聞を朗讀し布衍して
話しました 諸君は教科書よりも活きた美談を
提供されて非常に利益で有つた亦女子部では作
業服を作つたと云ふので東京の様子を聞きたが
つて待つてゐて晝の休みが楽しみで有ると言ふ
譯を聞いて見ると東京の様子が早く聞きたいと
云ふので有りました

諸君が實際の模範的行爲は精神的に感化を與へ
る事が出来た尙具體的に申しますと實際に表れ
て來た 手本にした事が有りませんが亦いづれ機
會を見て申上る事に非ざるを得ない事と
併せて諸君の御苦勞を感謝します

と有り難き訓示があつて式を閉ぢ散會の告辭があ
つて各員相互にどうも御世話になりました御苦勞
様でしたと感歎なる言葉を交し乍ら惜別しつゝ郡
役所の門を出た

明治神宮御造營奉仕所感

擲筆の辭

今や歐洲の戦亂の講和條約は成立し世界平和の曙

せしめ或は重大なる禍害を齎すに至るやも測り知
るべからざるの状況にして眞に是れ國家存亡の秋
なり古哲曰く

我に其の國の青年を見せしめよ我は其の國の將
來をトせん

と實に青年は國家の中堅なり國家の興廢存亡は懸
りて青年の双肩にありと言ふも過言にあらざるな
り傑僧大谷光瑞師最近帝國の危機を論述して國民
に警を告ぐ讀み行き讀み來りて憂國の眞情愈々深
きものあり書中國家主義と個人主義を論じたる一
節に曰く

今の青年蜂を喜んで蜂蟻を忘る蜂蟻は暖候に食
を求め耐寒の用に供す其の勞するや營々休止せ
ず蜂の雄蜂の如きは生殖の事終れば其の食糧を
徒費するを以て巢外に驅逐せらる其の社會の健
全なるや他の及ぶ所に非ず故に嚴冬に際し地凍
結すると雖も巢中は蓋々として春の如く又食の
乏しきを憂へず眞正の個人の自由を得んごせば
國家主義に非ざれば不可なり既に人種の別なく
國家の利を見ざるが如きは主義として學者か講

光黎明を告げんとするに至れるは全世界の爲慶す
べき事なり

我が國は明治維新以來泰西の文物を吸收して實に
驚くべき進歩發展をなしたり四十餘年前支那の隸
屬の如く歐洲より誤らし、より今日世界列強の班
に列し優秀なる成績を挙げしは實に欣喜に堪わざ
る處也 然れども沈思以て英米佛伊と其の實力を
比せんが冷汗背を濕すを覺ゆるなり領土戸口は間
はずもがな彼の實力の我に數十倍するは實に驚嘆
する所なり

我が邦の實力果して英米に比し眞實の平等なりや
是れ我が國民の猛然反省せざるべからざる所なし
若しわれ我が實力英米佛伊に比し眞實平等ならば
彼のザエルサイエ講和會議に於て將たワシントン
國際労働會議に於て決して我が主張の容れられざ
るの理なく必らずや主張を須たすして彼より發言
せんのみ之れを内にしては昨年以來糧食の騰貴を
始め一般諸物價の騰貴は生活の不安を誘ひ暴動數
々起り殊に饑饉泰西の思潮は滔々我が國に侵入し
來り思想問題は農村に至るまで國民の腦裡を動搖

壇に閉日月を費すは可なれども實現するが如き
を思ふは誤謬なり唯だ團結の單位たる國家の數
々其の範圍を廣狹するが如きは免れ難しと雖も
社會結合の單位を國家と爲さざるべからざるは
明白なり

と實に四海一家の世界主義を夢想するが如きは邯
鄲街上虛生に等し此の如きは空言放誕にして之れ
を聞くもの時に快を覺ゆ然れども之れを實現し得
べしと信するが如きは痴人のみ世界改造の機運は
今や我が帝國をも風靡しつゝありかゝる世界變動
の中に在りて我が帝國青年が如何に處すべきかは
重大なる案件たらすんばあらず

牢記せよ我が青年

歐洲戦争の吾人に齎したる一大教訓は戦争が最
早戦闘員と戦闘員との衝突に非ずして國民と國
民との抗争にあるの一事なるを
國家の運命は國民全體の協心同力に依り始めて之
れを開拓し得べきものにして國家若し亡ぶるの時
は國民の幸福は之れを期し得べからざるの信念を
確手たらしめざるべからず彼のロシアを見よ盤鑑

速からず我にあり茲に於て青年は常に心身の修養鍛練に力め一旦緩急あらば國家總動員に應ずるの準備あるを要す大谷光瑞師は帝國の危機の結論に警告して曰く

青年は即ち國家の中堅なり中堅にして邪説の誤る所とならば國家の敗亡立どころに至らむ青年諸氏閑あらば庭上蟻と蜂とを見よ而して彼の微虫に對し愧づる所なくば幸也

此の秋に方り吾等草奔の身を以て畏くも明治神宮御造營工事に奉仕し先帝の御盛徳に報ひ奉るべき國家的大事業の一部に參劃するの光榮を得たるもの蓋し皇恩の優渥なるに由職せざるべからず奉仕に際しては吾等過分の優遇を忝うし奉仕に先立ちて神宮苑内の拜觀を許され工營中なる神宮に參拜し舊御殿及舊御苑を拜觀し然かも係員の懇ろなる案内と説明とを賜はり自から俗腸を滌ぎ畏神崇敬誠信質素の諸徳に薰陶せらるる誠心誠意の極致にして品性を養ふの本源なり亦内務省諸名士よりは忙中をも顧みす有益なる講演を夜毎に賜はり吾等が心靈上に受けたる成化は到底筆紙の現はし

盡すべきにあらず唯各自の胸裡に刻せられたる印象によりてのみよく之れを證するを得べきなり

嗚呼我が信愛なる三千の青年諸兄よ

一郡一村は即ち國家の一細胞なり故に地方の隆替は國家の休戚に關する大問題なり

今や世は漸く實行の重んぜらるる時ならんとす吾人は舉世此の階段に進みしを喜ぶと同時に「人は信仰によりて生く」て信仰の時代の遼遠なる未來に屬するを悲しまずんばあらず道は近きにある如上の意味に於て社寺は誠に我が國唯一の國民的修養の機關なりと言ふべく之れによりて以て敬虔の美風を振作せしめ各人をして等しく真摯にして質實なる日常生活の境に到達せしむるを得べし寔に神社は我國三千年來の民族心理の淵源にして我が國民道德の基調を培養し來りしものなり由是觀之地方自治團體に於ても宜しく惟神の道に則り祭政一致の時代に照し今後益々村政の綱基をして健實に充なる宗教的信念の上に安定せしめ以て教育に産業充分なる努力と發展とを遂げしむるを要す

之れが第一の着手として我が青年團が率先し日常生活に模範を示し進んでは村社又は郷社の社殿整域を修め一村敬愛人の風を助長し村内風教改善の爲に盡瘁せられん事を望む事切なり

茲に筆を擱くに當り吾人に衷心の熱語あり
大神よ希くは涓塵も當ならざる此の微弱なる青年をして靜慮反省勉み働きて帝國の礎石たらしむることを得しめよ

大正九年七月二十日印刷
大正九年八月五日發行

(非賣品)

發行人 利根郡長 野中富三郎
編輯人 利根郡書記 野上茂
印刷人 金子惣助
印刷所 全縣全郡全町全番地 利根郡印刷所

發行所

群馬縣利根郡役所